

UC-NRLF



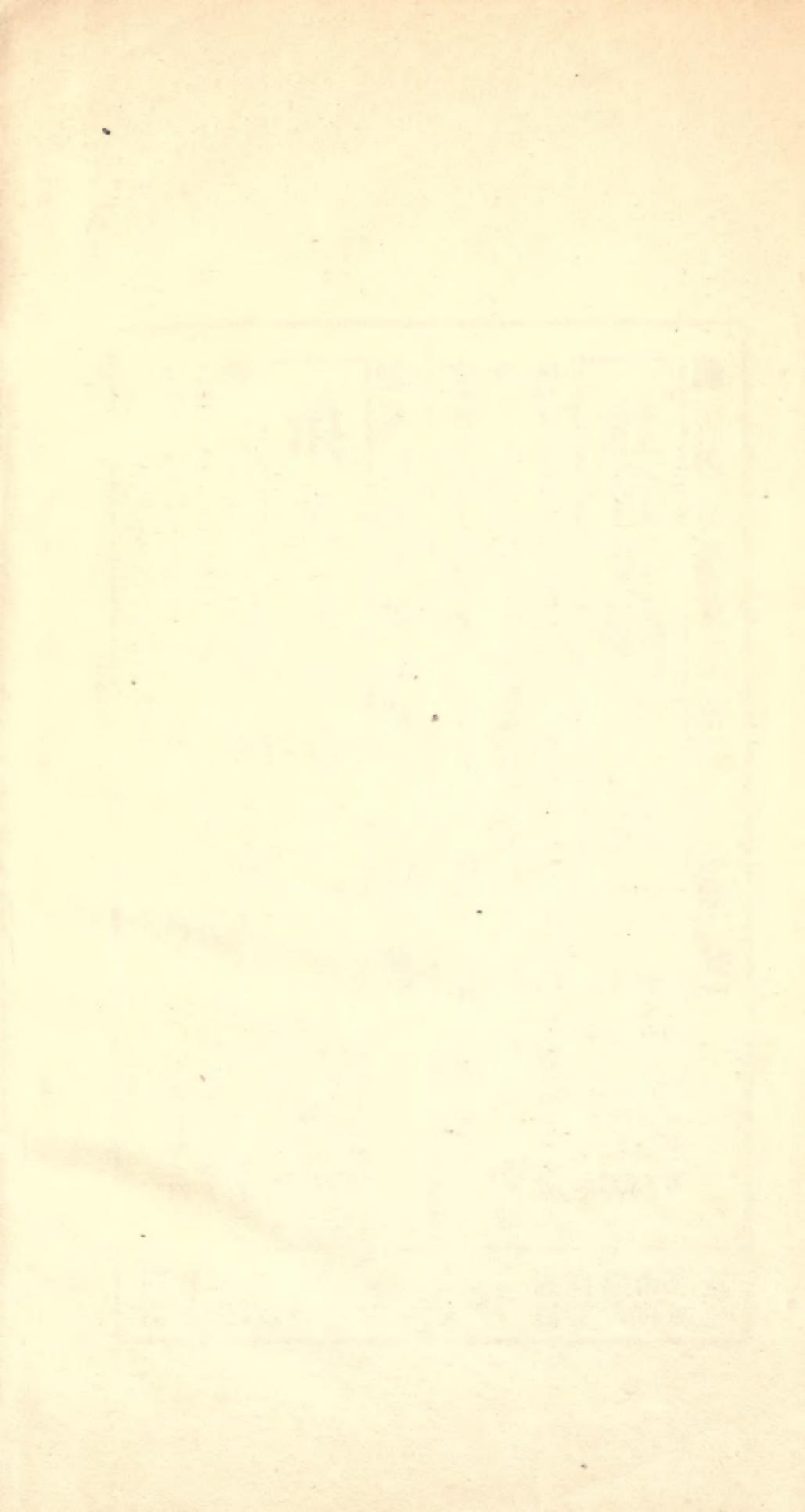
B 4 340 854



U. C. BERKELEY LIBRARIES



C070082200





山田わか女史著 【新刊】

# 社會に額づく女

四六版 四百廿頁  
總洋布 上製箱入  
正價 二圓三十錢  
送料 金十二錢

新時代の思想傾向を常に公正なる立場から研究批判し且つ實際運動の中心的人物として重きを爲しつつある著者の雄篇を蒐めたるもの、一貫するところは社會奉仕の精神を高唱力説するにあり婦人界の新聲として敢而江湖に薦む。

永田秀次郎氏著 【四版】

# 浪人となりて

四六總クローズ特製  
箱入 三三百頁  
正價 一圓三十錢  
送料 金八錢

曩に警保局長として「東青嵐」の盛名ありし著者が、官を辭したる後、現下の思想問題たる民本主義と過激思想、立憲國民と警察等に就て論じたるものと、故郷日記其他才筆縱横の感想とを收めたるもの、氏が俳人としての素養と新人としての蘊蓄を立證して餘りあり。

東京市麴町區 耕文堂 振替 四六六番 座口 東七番 京番

◆ 式一リタイ ◆

ユカイ万年ペン

ダイコー工場責任製造品にて尖  
は新クオーツ金色人造水晶にして  
普通の金ペンより十倍の耐久力あり

(自動吸入式)

クリツプ附

金壹圓五拾錢

▲送料 内地無料 外四十五錢

スラ〜と上下左右心地よく細い一定の字が書けインキ  
の出工合は勝手に調節が出来殊に日本文字を日本紙に書  
くに最も都合よく線を引くにもよろし値が又此上なき御  
安い事杯他に求められぬ特長です。

大  
阪  
毎  
日

大  
新  
日  
本  
電  
機  
有  
限  
公  
司

大  
阪  
西  
町

振替大坂

八九四三

電本

大  
毎  
日

代  
理  
部

五  
八

哲學博士 小島茂雄氏著 【六版】

# 新案 和漢英用辭典

中版千二百頁箱入  
總洋布製裝幀極美  
特價 三圓二十錢  
送料 金十八錢

本書はイロハ共通の索引で漢字と英語が同時にわかるやうに仕組みたる索引にして、英語には凡て正確な片假名の發音を附し、然も文字の配列順序は昔人の記憶と日常の索引に一大改革を加へたればイロハさへ讀める人なら活用は自由自在、便利重寶此上なしである。

時代研究会編著 【十二版】

# 現代新語辭典

ポケット型三百頁  
總クローズ頗美本  
特價 金一圓  
送料 金六錢

最近急激な社會の變動につれて毎日の新聞雜誌や日常の座談演説などに其意味のハツキリせぬ新熟語外來語通語などが盛んに使用せらるるやうになつた。本書は此等の新語數千を網羅し極めて便利な編成法により其意味と出所を明かにした座右必備の顧問である。

東平 京市 麴町六丁目 區 耕文堂 振替 四六六番 座口 六番 東京 七番

大正九年十二月五日印刷  
大正九年十二月八日發行  
大正九年十二月十五日再版

(特價一圓四十錢)

不許  
複製

米國の裏表奥付

著者 宮川節郎

東京市麴町區平河町六丁目一番地

發行者 柏田哲男

東京市神田區中猿樂町十七番地

印刷者 大杉直次郎

發行所

東京市麴町平河町六丁目  
振替口座東京三四六六七番

耕文堂

印刷所 三興社



米國の裏表終

し後援せらるゝ篤志の士があるならば如何に幸福であらう。如何にSが喜ぶであらう。如何に國家が是によつて利益をうけるであらう。日米親善株式會社と名づけても良い事業である。西比利亞、滿蒙支那朝鮮の開發を計り日本の勞働者を助け米國や濠州と圓滿なる親族交際が出来る。此殖産事業は實際世界の爲にもその發達を望むのである。世に百萬圓何のそのと云ふ愛國的事業家があるならば一日も早くSに會つてもらひたひのである。

「此事業は特別の獨特の事業である。さればと云つて年々利益のあるものであるから決して危険性を帯びたものでない。只機密を要するから無條件を以て私の人格を信用して資本を出して下さる人があるならば私は喜んで是を受け、事業の全部を其人又は國家に献上したい。誠に日米露支親善の爲に百萬金を投じて下さるならば日本國家の爲め同慶の至りである。勿論今日まで微々たる獨力を以て經營して來たのであるから急に大資本を投ずるにも及ばん五十萬圓でも二十萬圓でも十萬圓でも良ろしい。要するに百萬圓何のそのと云ふ大人物の金が欲しい。」

日本にも大なる事業家のあることを信ずる。世界的の善良にして且つ有利なる新事業にSの人格を信じて百萬圓何のそのといふ大度量を以て投資

案も日本の種々の運動もあつたが遂に通過したのである、日本人の運動や  
 宣傳に好悪二種の結果を生んだらしい。かくしてゆくうちに日本人も米國  
 人も共に試練せられてゆくのである。只日本人の忘れてはならん事は一般  
 投票通過と條約協定とが終つたからとて決してヤレ／＼一段落と安心すべ  
 きではない。實は是が大仕掛の排日の初まりで愈々是から益々複雑になつ  
 て來るものと覺悟しなければならぬ。かくして日本は益々進歩發達する  
 であらう。愈々世界的に發展するであらう。私は加州の排日と全く別問題  
 として米國全體は日本の貿易上の大顧客である事を忘れずに通商上益々親  
 密になり相互に利益を得たいと思ふのである。

日本にSと云ふ人がある。Sは日米貿易に非常に盡さんと志して居るも

「寢言と云ふものは一體解らないものですが、この若旦那様のは何だか變な調子です、ね、ありや泊來の寢言ですつて道理で様子が違ひますわ、私は生れて初めて唐人の寢言を聞かせて頂きました」

## 二十七 百萬圓何のその

米國の大統領の選舉も、加州排日案の一般投票も、豫定の通り終了した。新大統領のハーデング氏は、私は卵の様な人だと思ふ。表面丸くて白く、一寸硬い所もあるがあれで當つて見れば碎け得られる人である腹の中には白味もあれば黄味もあり仲々味のある男らしい、要は是から接觸してゆく人の腕次第で日本の爲にも充分滋養分を給し得られると思ふ。加州の排日

或日本人で英語の可なり上手な男が、この英語思想式に成つて日本へ歸つて來た當時、勿論獨語は英語でばかりやつてゐたが、時々大急ぎの場合には英語でウツカリやり出す習慣があつた。又怒つた場合とか、感心した時には思はず英語の感歎詞を連發したもので。氣障で數などをよくワンツースリー等とやる人があつて私などもその不自然な、且つ下手な英語を嫌に思ふ事もあるが、彼れのは全く自然に英語が出たのである。こうなれば會話は先づ卒業である。又其人は夢なども英語ばかりで見、自分の親が英語が出来ないにもかゝらず夢では英語で自由に話し合つて居つたりなどするのであつた。困つたのは其家に雇はれて居つた田舎出の婆さんで、時々此男の寢言を聞ひたがサツパリわからん。

以上の十要項はいづれも順次に進んでゆくべきものである、決して一時に皆やるのではない、第一と第二、次には第二と第三といふ順序に進んでゆくべきである、日本ではよく英語を話さんとする場合に、一度頭の中で日本語で文を作つて見て、それを英譯する人があるが、あれはいけない、ドッグは犬であると考えずにドッグとは直に動物であると頭で思つてしもうのである。尾のある、耳のある、四足のワン／＼と泣く／＼とした動物であると思ふてしもうのである。遂には凡ての思想を英語で考へるといふ風になるのである。Aの所へ行こうか何々しようかと頭の中で考へる所をGO, THEN, DO THAT, THAT'S RIGHT, と云ふ様な頭になつてしもうのである。

國に三年も居ると驚く程米國化して英語の會話が上手になるものである。

第九には多く聞き、多く語り、多く讀み、多く書くのである。その間に精通し、熟知し、應用自在といふ所謂十八番の文例を頭の底に覚え込むのである。此活用し得る文章、即ち文例を二三十も覚え込むと、其應用に依つて大いに會話は樂になるのである。耳を練り、舌を練り、而して別に練り上げた文章を二三十憶え込んでしもうのである。是は多くの實驗者の秘法として居る所である。

第十には字引を小口から暗誦して行くのである。いざといふ場合になるとやはり單語を數多く知つたものが勝である。或る一語を知らない爲めに演説の時等に非常に困る事がある。

用をなして居らないのである。こちらから先づ向へ物を尋ねると向は答へざるを得ぬから、従つて趣味を以て話し込んで來るのである。そのうちに向でこちらの意見を推察して呉れるからその機を失せず、明瞭に而して強く且つ簡単な言葉を用ひ、短い文章を以て句切り／＼話し込むと向ふでは參つてしもうのである。

第八には英語の會語の上達を願ふならば。先づ日本語の會話から上手になつて置くのである。日本語の上手な人は米國などでも英語は必ず上手である。あの男は英語は大變上手だが、日本語はますいななど、云ふ人があるが、それはウソである。日本の或地方の如き變な訛のある人は、英語にもその訛があらわれて聞き難いものである。日本語の會話の上手な人が、米

第五には外國人の會話に充分注意を拂ひ、常にその眞似をするのである。特殊の言葉の用ひ場所や外國人の眞の發音や、表情や聲の調子などは凡て此眞似によつて得るのである。外國人がやつた事は眞似て見るのである。是が會話には應用と活用の必要な點である。

第六には會話は決して上手振らない様になければならん。自己流の氣取氣分を出さない様にしないとこれが凡て外國人には妙な癖としか見えす従つて上手のつもりでやつた事が反つて缺點として外國人に現れるのである。だから此點は餘程お互に注意すべきである。

第七には會話は多く質問の形で行く方が良ろしい。理論を列べると外國人は意味の解らない時は單にフン／＼と云つて聞ひて置くが、全く會話の

く續け出しつゝ纏めてゆくのである。

第三には英語會話は習ふ可きもので無く慣れる可きものであるとの心得を常に持つのである。出来るだけ多くの機會を獲へ、且つ知つて居る所の言葉を充分活用し應用して行くのである。是は何人でも知つて居るが割合に出来ないらしいから、私は切に慣れる事を實行する様御勵め致したい。

第四には會話には出来るだけ簡単な言葉を用ふ可きである。例へば買ふと云ふ場合にはパーチエース等と云はないで、パイと簡単にやつてしまふのである。従つて文章も出来るだけ短くして、バットとか、ザットとかの接續詞を可成少くして、日本の陸軍の報告式にやるのである。是は會話の秘訣とも云ふ可き點である。

に遅いのである、實は日本語さへ未だ解らない時分から初めると上の上である。私の經驗から見ても子供に二ヶ國以上の言葉を同時に教へても決して混亂させないもので、外國へ行くと父には英語を用ひ、母には佛語を用ふる子供も少くない。子供で四五ヶ國語出来るのは珍しくない、子供の語學に上達する事は實に天才的である、だから既に子供の年齢を過ぎた人は今更ら若くなれと云はれても仕方しかたの無い事であるから充分若い幼い者の心持になつて勉強する事が必要である。

第二には語學勉強中は思想を簡單にして餘り多く考へず深く思はない事を要する、少々思想上不備の點があつても是を恐れずにとん／＼と話し出すのである、考へて後に意見を出さずに英語で話しつゝ自分の意見をつん

で自分の意志を表はす事が出来兼ねるのであるから、その如何に難物であるか、推察できる。さればと云つて英米に十數年居つて尙、日々の會話が自由でないものもあり、外國の大學の學位を持つてゐる人で英語演説の出来る人は十人のうち三人とはあるまいと思ふ、すればあながち外國へ行つたからと云つて決して英語の上手になるに限つたものでなく、反對に私は日本内地だけで勉強した人で、會話も演説も頗る上手な人を澤山知つて居る。是によれば心懸次第で日本でも英語會話は外國に居つた人以上に發達出来るものであると認められる。私は英語は極めて下手であるが、今日まで米國であらゆる機會で得た實驗から其要項を列べて見る。

第一に會話の上達するのは若い時に限るのである。二十歳を過ぎては既

の訊問殘忍酷厲を極め、遂に命旦夕に迫れるあり、狂疾の爲めに殞れたるあり、神經衰弱にかゝるあり、收監中の悲衰と痛苦とはその極に達した。」  
是では國民もたまらない。私はかくまで人としての自由と幸福とを檢事の爲めに蹂躪せられた諸士に再び深厚なる同情を表し、且つ若し是が凡て事實であるならば日本國家將來のため、甚だ寒心に堪へないと思ふ、願くば國民を謬らない様に國家の事業に當る人々に切望する。

## 二十六 英語會話上達の要項

何と云つても日本人には英語は難物である。特に會話や、演説と來ては非常に困難を感じる。中學から高等學校を経て、大學を卒業しても外國語

監獄かんごくにぶち込んで置くぞと脅迫けうはくせられ、被告こゝろは是これがために悲かなしみ、怨うらみ、憤いほり、竟せつぱうに絶望せつぼうの淵ふちに陥おちり、檢事けんじに迎合いごうするの眞理しんりを生なじ、虚構じじょうの事實じじつを申し立てた。殊ひに被告こゝろを收監しうかんする際は、實かに苛酷かこくにも水みづも眠ねる深更しんかうを以もつて行いはれ、其他そなた酷薄こくはくを極ためた檢事けんじの活動振くわつどうぶりはいづれの國くにに於おても類例るゐれいの無ない事ことであらう。」

公共事業こうきぎやうじげに盡力けんりきした温厚をんこうなる知名ちやうめいの士しが多く被告ひこくとなつたのである。私わたしは當時たうじの被告ひこくに血ちと涙なみだとを以もつて同情どうじやうする。花井博士なほは尙なほかく云いつて居ゐる。○「檢事けんじの訊問しんもんは殆たいていんど想像さうぞう以上いじやうに暴虐ぼうごつを縱たてにし、議員ぎん盡じんく人権蹂躪じんけんじゅうりくの事實じじつに泣ないて居ゐる、檢事けんじは實じつに舊思想きゆうしゆきやうに囚とらはれ、武斷主義ぶだんしゆぎに走はり、議員ぎんが勇ゆうを鼓たして眞實しんじつを告つげんとするも、耳みみを藉せきさず却かへつて叱咤しつた怒號どごうをなし、病被告びやうこゝろ

天皇の名に於てなざる、所の日本の司法機關は實に神聖にして、公平なるものである。私は判事や検事も知つて居り、個人として尊敬して居る温厚なる判事もある、然るに勝本博士は、検事は人權を蹂躪したりとて左の如く話して居る。

「刑事訴訟法の條文に、脅迫訴辭を用ふべからずととしてあるに抱らず、檢事の取調は此を裏切る事がある」と。

如何にも京都瀆職事件の際に檢事は恐る可き言葉を用ひて、婦人を取調べた事もあるらしく聞ひて居る、花井博士は左の如く痛論して居る。

「檢事の取調には一に威嚇が行はれ、晝夜間斷なき訊問が續行され、ブタ箱が使用され、自白の強要が行はれ、嫌疑の事實を承認せねばいつまでも

を以て事に當らねばならぬ。皇室が如何に國民を愛撫し給ふかはかの幸徳一派の事件の後に桂公をして濟生會を起さしめ給ひ、山梨縣に暴動のあつた後には御料林の御拂下があり、米騒動があれば御内帑金の御下賜があつたのを見てもよく察せられる。併しかりそめにも皇室の愛に慣れてはならない、暴動だとか騒亂等も最も謹まねばならん、又爲政者は暴動の度に軍隊の出動を要求するが如きは最も危険である。

明治大帝の五ヶ條の御誓文は民本主義の大精神である。民本主義は何等危険なものでない、我國は我國固有の民本主義の理想によつて、善備すれば良いのである、頑迷なる爲政者が此大精神に逆行し、國民の此温健なる思想を威壓するが如き主義こそ、則ち懼る可き危険思想である。

の時代であるから當局も少しく考へる必要があらう。宮内省すら御料地を整理してゐるではないか、當局者は充分國民をあやまらない様に御注意を願ひたい。

皇室と國民との中間にある華族制度の整理も大いに望ましい。民本主義になりつゝある時代に、華族の存在するのは老英國だけである。その英國に於ても華族の存廢に付ひて議論があるのである、皇室の藩屏にも國民は追々恐縮して居るのである。一代華族論や、一代遞下説も滔々として行はれて居る、爵位を辭する人々も澤山出來て來たのは全く喜ぶ可き傾向である。

皇室と國民とは實に是神秘的の關係である。此間にあるものが良く至誠

視察者、澤來太郎氏の談である。土一升、金一升の東京市内にも土地經濟を無視してある官有地が多い、例へは市内目抜の場所では參謀本部前の廣場は未だに石材の置場に成つて居り、文部省側の廣い空地も始んど使用せられて居らず、禁衛には近衛師團が市内にあれば足りるのに、第一師團麻布聯隊等も高い土地を惜氣もなく練兵場にして居る、砲兵工廠や、大塚の火藥庫等は郡部に移轉すれば、市民は非常に喜ぶのである。

九州で實例を揚げると、福岡西職人町に總坪數千四百坪の宏大な屋敷がある、一廻りもすれば二時間はかゝる庭もあるが、此屋敷が家賃たつた月に四圓で、裁判所長の官舎になつて居る、高給の高官はかくの如き恩澤を持ち、安月給取は三四十圓の家に餘儀なく入らねばならぬ、デモクラシー

昔ならば夢にも考へ得られなかつた程である。私は益々これが多くなつて來るのであると信ずるが、この皇室が國民を思はせ給ふ尊い御心こそ、實に日本のため世界に類なき國と感謝すべきであると思ふ。

宮内省の御料地は全國に存在するが北海道には全道の四分の一を占めて全く活用されてゐないのを惜しく思し召され、國民のため幾部を御整理なされ御處分なされたのなども實におそれ多い次第であると思ふ。然るに全國の官有地などが放漫に且つ不經濟に放置せられてゐるのは如何なるわけであるか。

陸軍省は第一に廣大な土地を捨てて居る。最も僅少であるべく思はれた司法省の如きすら監獄署附屬地などに無意義に所有せられてゐるとは實地

ため、此等の醒めたる軍人が、眞に國家人類のために働かれん事を希望する次第である。

## 二十五 皇室と民本主義

私は嘗て某宮殿下の名古屋から京都までの御旅行を親しく拜し、御長途の御汽車中常に御禮儀を重んぜられ、且つ一同に對し極めて御丁寧であらせられたには心から感心申し上げたのである。最近には賀陽宮殿下より御親しく御懇情に満ちた御言葉を頂戴し、更に、高貴の方々が私共一般國民に御懇勤に在らせらるゝを知つて更におそれ多い事であると思つてゐるのである。皇室が國民の幸福増進に近來御心を用ひさせ給ふ程度は、實に

盾はありはしまるか。

軍閥主義者の中には、昔からの忠孝道德を以て隨一の國民道德として宣傳して居る人がある。勿論忠孝は大切であるが、今日は忠孝だけでは完全なる道德であると稱する事は出来ない。日本が世界的にならんとして居るのであるから、忠孝及び忠孝以上の深い道德も心得て置かねばならん、世界人類の爲にも奉仕する程度の大きな道德も忘れてはならない。私は全國の青年團や、軍人會を指導するにも、世界平和の念を以てし、有力なる諸團體を有用に活動せしめねばならんと思ふ。私は個人として多數の日本軍人を知つて居る。皆立派な人である。而して今日までのあやまれる軍國主義に反對して居る人も、此内に多くあるのを知つて居る。願くば日本國の

支那人の昌眞司氏といふ人がこう云つて居る。

「日本の名高い神社には必ず戦利品が記念として列べられてある。日清戦争の戦利品には漢文を以て堂々と軍國主義が賞讃してある。漢文は日本人よりは吾々支那人の方が寧ろよく解る、それで日本は表面は偽善にも日支親善を標榜して、支那人を感かさんとして居るらしい。眞の國際親善は軍國主義からは來ない。劔を取るものは劔に亡びる。吾々の眼からは日本の神社は軍國主義の養成所の様に見える。嗚呼禍なる哉醒めよ日本人」

吾々は三思三考すべき言葉であると思ふ。神社は小學校の生徒等も行く所である。軍閥は切りに兒童の神社參拜を稱へて居る。しかも教育家は兒童に國際親善と、世界平和を教へんとして居る。こゝに大なる軍國の矛盾

營庭で數百數千の銃彈ちゆうだんを上官から無駄むだに捨て、しまへと命令めいれいせられ、はて不思議ふしぎなど調べて見ると、それは來年らいねんの豫算よさんに銃彈ちゆうだんの費用ひようが既に定められてあつて、前年ぜんねんの分が残つて居ると反つて面倒めんどうだから捨て、しまへと云ふのでした、その時私は帝國ていこくのために今度は其軍人そのぐんじんの不經濟ふけいぎと不忠勇ふちゆうゆうとをゐたく悲しみました。」

兵士も國民こくみんである。寒い軍國主義ぐんこくしゆぎを捨て、温い人間味にんげんみを以て導かないと眞逆まごかの場合に大變な事ことにならないとも限かぎらない。前年の米騒動こめさうどうの時に饑饉きげんならぬに日本國民にほんこくみんは全國に涉つて大鹽騒動おほしほさうどうの様なものを作り出した、その際名譽ある皇國くわうこくの軍隊は、同胞どうほうを打つ可べく銃劍ちゆうけんを突き向けなければならなかつた、實じつにこれは大正聖代たいふしやうじの一大不祥事だいいふしやうじであつたと私は思ふ。

日本をして益々軍國主義なるかの如くに誤解せしめ、遂に加州に於ける排日運動をして一層熾烈ならしめた風がある」とある。日本の軍國政策に對する悪感あくかんは、身一度海外に出づれば如何いかにその甚大じんたいなるものであるかが直ちに知られる、従つて歸朝きてうの在外武官等は決して軍人ぐんじんとして政治家せいじかにならなないものである。

軍人ぐんじんのうちでも兵士は反つて軍國主義ぐんこくしゆぎに惱まされて居る人が多くある、或る兵卒へいそつの話にこんなのがある、

「私が在營中ざいえいちゆうに一日銃彈を一個紛失ふんしつしたので、處が一發はつの丸と雖ども帝國のものであると云つて、非常ひじやうに嚴しく譴責けんせきせられ、私も流石ちゆうじゆうは忠勇な軍人であるとお上官じやうくわんに對しても耻しく思つたのでありますが、その年の終りに

## 二十四 軍國政治を排す

軍人は國の花である。私は日本の軍人を心から好む、日本の軍人は忠勇である、軍隊の生活は規律正しい、行動は嚴正である、實に日本古武士の美風を最もよく傳へて居るものは云ふまでもなく今日の日本軍人である。然し軍人は軍人であつて、政治家ではない、軍人式の政治は今日の世界に入れられない、軍國政治が世界をして日本を誤解せしむるのである。日本が痛くもない腹を探られたのも軍國政治であつたからである。

憲政會の某有力者の話に、

「時代の趨勢に逆行せる對西伯利亞政策、並びに謬りたる對支政策は遂に

氣がついて子孫のために禁酒する人は少ない、若松市の大火で市の目貫の  
 場所悉く灰燼に歸し、百數十戸を焼きつくしたが、其原因は某寫眞館で鋤  
 焼で飲酒し、其始末が悪かつたのであると發表せられてあるが、こゝま  
 で酒の害を明瞭に示されても酒を止めないのであるから困つたものだ。私  
 は労働者等が少量の酒を用ひる事にまで論及しようとは欲しない、然し酒  
 を飲む事は自から不幸を招き、子孫を不遇にし、國家の爲にも、不經濟で  
 あるから日本の凡てが飲酒するとしなひにかゝわらず飲酒する事は罪を犯  
 しつゝあると云ふ觀念を持つ様に在來の思想を改造せらるゝ様切望するも  
 のである。酒さへ飲まない國民は世界の何處でも歓迎せられる。飲酒の盛  
 んなる間は排日問題解決なども前途は尙遠遠である。

て居る、同じ日本人同じ人間が一村の地車位で命を失つては村の神社の守護神にも濟むまい。

祭には必ず酒がつきものである、人を保護せらるる神が人に酒を餘計に與へ給ふ筈はないのである、日本では古來の習慣上酒の害を餘りに知らない、例へば大阪附近池田在で五人の不良少年が女學生を殺した事件を調べた警官が不良少年の親は大酒家である、それで子供が大罪を犯したのである、つまり酒が不良青年を生み女學生を殺したのであると發表したが、是を讀んで驚ひた人はあるが、今自ら飲みつゝある其酒が其と同じ悪い液體であると感じた人は少なかつた。人として子を愛せんものはないが、修徳館調査にかゝる異常兒童百人の内四十四人までが親の飲酒の結果であると

迷信まいしんに走るに至るのである、私は日本人にほんじんと云ふ詩的うつくの、而して美しい思想しゆきう國民こくみんに、青年時代せいねんじだいの宗教研究しゆきうを切おに御勵ごすめしたい、それは後年こうねん迷信まいしんに陥おらない安全第一あんぜんだいいちの策さくである。

秋祭あきまつりの季節きせつに入ると田舎いんがでは屋臺やたいをかつぎ廻まるものである、私は國粹保こくすいほ存ぞんの意味いみと農村青年いんそんせいねんや其子女こそのこの遊戯ゆうぎの爲ために昔むかしからの屋臺やたいを絶對はいていに廢止はいしせよと云ふものでない。然し氣違きちがひの様ようになつて騒さわぎ廻まり、遂つひには神かみの祭りまつりであるに、喧嘩けんかの日の如ごとくにし、小ちひさな愛郷心あいかうしんから自分おのれの村むらが強つよいのなんのと云いひ出す様ようになる。私は世界せ的かいてき思想發展しゆきうはつてんの法はうとして、或程度あるていどまで偏愛へんあい的てきの愛郷心あいかうしんなどは改良かいりやうしたいと思おもふ、某々むらむらの村むらでは地車ダンジリを出だして、村むらと、村むらとが喧嘩けんかをして數百人ふしやうしやの負傷者ふしやうしやを出だして、數名しうしやの死者ししやをさへ出だしたと聞きひ

信心や、願ねがかけなどはないが、これで日本にほんから全部の迷信めいしん邪教じやけうがなくならなくては眞まことに世界的文明せかいてきぶんめいこくみん國民と云はれないと思ふと實じつに迷信めいしん打破たはは目下帝國の一大急務だいきふむである。

大本教おほもとけうなどが流行する丈だけけ未だ日本にほん思想界しやうかいには缺陷けつげんがあるのである。變へんな宗教しうけうの様ようなものが時々日本にほんには出來たり消へたりして居るが、是は國民こくみんが宗教上けうじやうの教養けうやうが足りないからである。つまり人間にんげんは宗教しうけうを必要ひつやうとするものであるが、日本にほんには宗教しうけうが少ない、そこで子供こどもの時分ときぶんは宗教しうけうが無くても無邪氣むじやきに濟むが、やゝ社會しやくわいが解つて來ると心の淋さびしさを感じる、そこで急に信仰しんかうを起そうとするが青年時代せいねんじだいを無宗教むしうけうで過すこしたものは仲々なつか信仰しんかうに進すすめないもので、困苦こんくの一策いちさく、其時々そのときに出來る急製きうせいの宗教しうけうや、淺薄せんはくな

が達し得られると信ずる事を云ふのである。例へば子供の足の病氣を治す  
 に立たせて其足跡に鹽を振りかける人の如きである、足の病氣と足跡とは  
 全く關係がないのみならず、鹽と子供の足とは更に關係が遠いのである、  
 又金が儲けたいと云つて、社前に鳥居を寄進するのも迷信である、神社に  
 祭られた神は金儲けと全く關係のないものである、神は更に鳥居の一本や  
 二本で心を左右にするものでない、數百人數千人と參詣する人々が皆別の  
 願ひを持つて行くので、是に一々應接して居つたら神もたまらないのであ  
 る。こゝまで考へて見ると少々教育のあるものは、迷信が馬鹿らしくなつ  
 て來るのである。追々全滅するだらうがまだ若い人々の内にも迷信家  
 がある、迷信と教育とは反比例するもので、勿論教養のある人には馬鹿な

「〇〇の神さんは眼に御利益があつて、御水を頂ひて來ると良く眼病が治ります。」

井戸の水は眼に無害であるが、神前や、佛前に二日も、三日も出して置いては正に悪水になつて居る。

「〇〇の佛さんは胃病によろしい、一度御祈禱を願つて御覽。」

加持祈禱は法律で禁じられてあるのであるが、まだ日本には盛んに行われて居る。いや方位が悪い、稻荷下げだの、護摩を焚くの、それ動物を拜む、線香を焚く、山の上の寺へ行つて金持ちにしてくれと頼む、遠い所の社に參つて、肺病を治してくれと要求する、其他日本には實に澤山の迷信がある。一體迷信とは其願ふ所と全く關係のない事をしてそれで願ひ

自稱一等國が眞の一等國になるには、世界的にならねばならん。世界の  
 思想や傾向に遅れてはならない、日本は趣味の多い國である。日本人は皆  
 詩人である、路傍の松にさへ趣ある形を作らんとし、道に落ちた石にも詩  
 を與へんとして居る。然しながら、この石を刻んで禮拜するのは考へ物で  
 ある、一塊の石を地藏と命名するのは詩であるが、これに無病息災、一家  
 安全、國家平安まで頼み込むのは間違つて居る、それは未だ良いとして、  
 家に病人のある時に切りに全快を此木や、石に頼む人がある、或る物を目  
 に見て是を心の目標として、精神上の統一を計らんとする信仰なれば私共  
 は先づ賛成する、是は宗教の一種である、然し宗教と迷信とを混同しても  
 らつては困る。

ふ觀念くわんねんが出来たら最早や世界的せかいてきの人間として改造出来た次第である。

加州問題かしょうもんだいから世界的國民性の改造かいざうに入り迷信打破から禁酒きんしゆの話にまで進んだが、此手紙このてがみのうちに或る重要問題じゆうじゆうもんだいを解決したつもりである、愛國家たる君よ、君は米國べいこくに居る時も、常に日本にほんを忘れず日本國の幸福増進かうふくぞうしんを人よりは、一倍心痛はいしんつうして居つた、願くば君の愛國心あいこくしん、君の日本を思ふ熱誠ねつせい、これが米國人の善良なる方面の人々と、よく理解協力りかいけうりよくされて永遠に平和で、幸福である兩國國民を持つ様に、努力どりよくあらん事を切に希望する次第である。

是で米人A氏の書簡しよかんは終つて居るのである。

## 二十三 文明人となるには

る必要上、迷信めいしんの一日も早く少なくなる事を希望きぼうするのである、歐米おうべいにも迷信はある、支那しなにもある、凡て文明程度ぶんめいでいどの低い國程、迷信が多い、私は日本の神社じんじやや寺院を神聖なる宗教しゅうけうのみの所としたい、神社などは、、、、して、、、、すれば良いし寺院は僧侶そうりよが國民道德こくみんだうとくを宣傳すると同時に死者ししゃを葬る所とし、、、、すれば日本ほんの爲め大なる幸福かうふくであると信ずる。

次は飲酒いんしゆの問題である、吾米國わがべいこくは既に禁酒國となつた然し日本ほんにもと強ふるわけではないが米國べいこくは財政上、又は國民經濟上禁酒國となつて以來非常に利益りえきを得て居る、少くとも、酒さけといふものを飲むのは罪つみである、法律上の犯罪はんざいでなくとも國の爲にも、家いへの爲にも、身の爲めにも罪つみであるとい

館等よりは先づ南洋なんやうでしか見られない風俗ふうぞくを探し固有の風習や名所舊跡あやしきうせきを見るだらう、未開土人みかいどじんの舞踊を見て面白いと云ひ黒奴美人の鼻はなの穴あなにさゝれた象牙ぞうげの櫛を珍しいと賞ほめるだらう、然しその土民どみんが君の玩具どくじやあるまいし、やはり文明ぶんめいに進んで男女の土人が靴くつを穿くひて歩き、歐米やうふくの洋服やうふくを着て暮す様やうになれば今度は心から喜よろこぶだらう、君、外國ぐわいこくからの來客などに彼等の好奇心こうきしんに投なずる様なものを見せるのは良いが、國運こくうんを睹みしてまで國粹こくすいや固有の事物を保存ひつえうする必要はないよ。

私は日本の神社じんじやや佛閣ぶつかくをだれよりも好すくのである、然しかの清淨せいじやうなる神社や幽嚴ゆうげんなる寺院に正しい宗教しうけう以外いぐわいに變な迷信たくさんが澤山あるのを知つた、迷信は日本にほんの様な一等國には少ない筈はずであるが私は日本にほんが世界的文明國せいかいてきぶんめいこくとな

民性を有する人種になつてももらいたいと云ふ事になるのである。

吾米國にS博士と稱する考古學者がある。B夫人と稱する物好きの婆さんがある。二人とも君の國で大變に御世話になつて古い珍しいものを見せてもらひ大いに日本の古文明とか固有の國粹とかを賞めて歸つたそうだがそれは米國人の實に一少部分の人で、あれが賞めたからと云つてまさか日本人全體がそれに乗つて國粹保存とかに力を致して世界的文明に遅れ様とは賢明なる日本人はなさるまいね。考古學者や物好き者でも日本が進歩發達する事を希望して居る。只わけもなしに美しい國粹を破壊しなさるなと云つて居るだけである、君が假りに南洋の未開國へ渡つたとし給へ、君はそこで會社や役所の建物ばかり見物して居るまい、東京にもザラにある洋

になるのです。

加州の問題は實に人種の問題なのだ、人種は改造が六ヶ敷いから今日迄大膽に加州問題は人種問題だと斷言したものが極めて少なく、況んや人種改造だとまで直言したものは未だ無いのだ、然し君よ、根本はこゝにあるのである、日本人が今日の日本人である限り、排日問題は根絶しない、君の朋友にして失禮だが狭量の人には此手紙の内容はこれ以下話さないでおいて呉れ給へ、改造の意の無い人は則ち排日問題根本的解決に意の無い人だからね、米國人の悪い所は君等充分御承知と思ふ、然し米國人から見た日本人の長所でモットく發達させてもらひたいと思ふ點を私から云ふとそれは日本人の長所たる進取の氣象を一層發達させて完全なる世界的の國

での駄々兒だつこで、加州に居る日本移民にほんいみんと二人仲が悪わるくなつたのである、然し私の方の駄々兒は吾米國わがべいこくで何とか責任を以て改良きつするから君きみの方は日本はうで一つ努力どりよくしてもらひたい。

日本移民の悪わるひ點を擧げるのは隣となりの子供の悪口を云ふ様なもので甚だ云ひ悪いが是これは云はずとも君は推察すゐさつて出來ると思ふから略する、所ところで根本的解決はやはり根本こんほんに歸らないと話しが出来できないもので、君の子供達こどもたちよりも實は君の國民全體こくみんぜんたいに米國人としての私の希望きぼうを云つて見たい、これを日本にほんの方で改良かいりやうして呉れない以上どうも排日事件はいにちじけんが根本的には納をさまらないと吾々米國人は考かんへて居るのだ、然らば加州問題かしょうもんだいの根本的解決策は何なんであるかといふに、日本にほんとしては日本を世界的せいかいてきの日本に改造かいざうすると云ふ根本的こんほんてきの話

問題として取扱つて居らないのである、排日問題は、日本にとつてこそ國家的のものであるが、吾米國では加州といふ一地方の事件に過ぎないと思つて居る。日本から米國中央政府に直接の交渉があるから無理に日米云々の文字を用ひられないでもないが、吾國でも紐育邊りでは、決して日米國交上の大問題とはして居らない、従つて日米といふ字の下に、何とか云ふ不吉の言葉をつけ加へられる事は充分御注意願ひたい、まさか加州の排日問題で、君と私とが喧嘩も出来ないじやないか、日本と我國とは君と、君の米國人の朋友凡てが平和である如く永久に平和であるのである。

然し加州の排日問題は困難な問題である事は私も認める。これが根本的の解決策は私等の仲間でも充分研究して居るのである。加州は云はば米國

これは後日題を改めて御話し申し上げる事と致しませう。

## 二十二 加州問題の根本的解決

加州の排日問題を以て、日本では日米問題と俗稱し、日米の國交にまで論及して居るのは甚だ遺憾とする處である。

これは米人A氏の私への書簡の一部である、A氏は有力なる米國の實業家であり、思想家であり、政治家である。従つて、代表的人物であることは云ふ迄もないが、私とは年來の親友で、互に心まで打明けて語り合ふ間柄である、A氏の手紙は左の通り續く、

加州問題は米國では、日本と加州との問題として考へられ、決して日米

米の飯を食ふ限り、排日が存するといふのではない。それなれば日本人の  
 全滅しない限り、解決出来ない事になるが、私はそこまで極端に云つて居  
 らない。只日本人としての強いレース観念を改めて、大きな世界的のレ  
 スとなれば、やがて此問題も解決出来ると信するのである。則ちレースを  
 世界的にする、レース観念を世界的にする事を云ふのである。是は單に在  
 留同胞のみならず日本人全體が心得るべきである。此レース観念を世界的  
 としない限り、排日問題は永久に解決の望はない、日本人がこのまゝ日本  
 人レース観念を持たんと争ふ間は、日本人は加州のみならず、米國全土に  
 も排斥せらるるに至る可く、根本的の解決は絶対に不可能であるのである。  
 然らば日本人レース観念の改良進歩の方法は如何との問題が起つて来る、

みでない、勞働賃銀らうどうちんぎんが安いからのみではない、米化べいくわしないからのみではない、加州かりえきに利益を與へないからのみではない、根本的こんほんてきの問題は他たにある。是を改めあらたざる限り、排日問題は永遠えいゑんに存在すべく、たとへ一時的たうきよくしやに當局者間に外交文書ぐわいかうぶんしよが調印されたり、有力者いうりよくしやが一堂に會して御世辭おせじを交換したりなどしても駄目である。

私の演説えんぜつはやがて結論けつろんに達したのである。

然らば排日思想の真相しんさうは何であると申しますに、全くレースの問題もんだいに外ならないのであります。日本人にほんじんが日本人レースであるからであります。即ち日本にほんレースが存する限り排日は存ぞんするのである、然し決して解決かいけつは永久に絶望ぜつぱうてきのものではない、何も顔かほの色いろが黄色い限り、日本語にほんごを話す限り、

のだ、同胞全體の爲にはならなくとも日本から來た大神宮さんの寄附募集人に少々餘計に金を出すか、本願寺の方へ多く寄進して置けば自分の罪亡しにもなり、日本の爲にもなり、故郷でも悪く云はれまると思つてゐたのである。

やがて風俗も改良せられ、生活や思想も大いに米化し、加州の同胞は日米親交の爲に、分に應じて努力する様になつたのであるが、時既に遅く且つ此間日本當局の交渉が一致せず、心ある在留民は當局の交渉が失敗する度に否交渉が開かるゝ度に、又かと悲憤せざるを得ない様になつたのである。

今日の排日思想は日本人の風俗問題のみでない、生活程度が低いからの

も餘程よほど良よくなりましたが、所謂いはゆる有力者いうりよくしやと云ふものが理窟かんとくや感情かんじやうに訴こへて居る間に、移民いみん達は盛んに日本の田舎かなかにもない悪習慣あくじやうや、未開みかひの悪風俗あくふうぞくをさらけ出して居つたので、遂つひに千九百五年には加州かしょうくわい々會は第一回の排日案はいにちあんを通過つうくわさせ、千九百七年には布哇ぶわからの移航いかうが禁せられ、紳士協約しんしけうやくに依つて絶對ぜつたいに日本にほん勞働者らうどうしやを排斥する様に成つたのであります。

如何いかにも日本にほん移民いみんは勞働賃銀らうどうちんぎんが安い、而して米國の風ふうを習ならふとしない、加州かしょうくわいに居つても、社會しゃかい的てきにも、經濟けいぎ的てきにも、何なにの貢獻こうけんもしない、勞働らうどうによつて無意識むいしきに加州の農園かうんを開拓かいたくするの効きはあるが、以前いぜんに考へて居つた所は少々餘計せうくよけいに金さへ儲まうけられたら、實じつは加州位かしょうくらゐひはどうなつてもかまわな  
い腹はらで、どうせ出稼人でかせぎにんだ排日問題はいにちもんたいが八釜かましくなつてもいづれは日本にほんに歸かへる

盛んに宣傳をしたが、是が反つて排日思想の存在を全米國に廣告した結果

となり、日本人は日本人のみ集つて事をし、白人と同化しないものである

との思想を、米國人に與へたのは實に残念な次第で、今後の排日問題解決

策を考へるものゝ、大いに注意すべき點であります。それから數年間の日

本人の運動と云ふものは總て權利争ひの様なもので、理窟一遍を以て對抗

したのであります、遂に日本人の風として感情の問題にしてしまひ、加州

民は日本人を排斥する權利がないとか、米國は正義人道の國でないとか、

米國人に米國の歴史を聞かせたり、向ふの國是をこちから説き付けたり

などしたのは實に排日問題を益々複雑ならしめた原因であります。

加州同胞の生活改善と云ふ事に氣の付ひたのは後の事で、今日では風俗

女が日本服に細帶、ヌーと出した黒い足に下駄を穿いて無數に布哇から加州へ轉航し、到る處で此日本の醜態を表したものですから、遂に桑港の新聞は公然と排日の記事を掲げるに至つたのであります。

「加州の農園にゆけば木造りの變な家を建て、これに幾十組の男女が雜居し、日本から味噌や、醬油を取り寄せて米國人の最も嫌ふ惡臭を放つて、食事をし、英語を學ばんとせで、大きな聲で日本の俗歌を謠ひ、生活は出来るだけ下等にし、日曜も働き、夜も働き、女も野に稼げば、子供も勞働する、社會の良風と、文明の生活を全く無視した日本人移民の有様に、流石の米國人も愈々排日の念を起す様になつたのであります。

「千九百四年には在加同胞は、排日運動對抗の道を計り、團體を組織して

今、私は或る席で、演説をして居るのである。これはその筆記の一部である。

「排日問題は僅かに十年や、二十年以前からの新しい問題でなく、甚だ複雑なものであります、先づ東洋人排斥の發端とも申しますのは、加州發展史の第一頁に既に存するもので、遠く千八百五十年即ち今から七十年前に支那人が鑛山で排斥せられたといふ所に源があるのです。日本人排斥は今から五十年程以前に初まり、千九百一年には加州のゲーヂ知事が排日の敎書を議會に送り、それから桑港では多數の日本人の書生が米國人に亂暴をせられ、在留の日本人も遂に喧嘩腰になつたものであります。次ひで日本から米國の事情に暗い山出しの勞働者が多數に渡航し、無作法な田舎の男

うかと思つたが氣を落ちつけて大膽に女中に案内をしてもらう、すると更に驚ひたのは私の用便中婦人なる女中が外に立つて待つて居るのである出てくると手に水をかけてくれた日本では今少し男女間の禮を正しくしてくれると良ひが外國へ行くか又日本で外國人に接する時に此式じや困るわいと思つた、勿論氣樂であるがこうした日常の風俗がつい男女間の道德に影響を及ぼして來るものである。

## 二十一 排日問題の真相

「加州の排日問題は日本では漫然たる智識によつて、單純に考へられて居る事を私は残念に思ふのであります。」

のである、二十錢五十錢皆米國の數倍の大ききである、貨幣は金貨の補助貨であるから出来るだけ小さくした方が便利であると思ふ、然し私人思つても仕方がないから其夜から錢入といふものを新調してこれに入れて而して更にポケットに入れる事とした、小紙幣がクチャクチャに成つて此錢入に入つた所は實に世界にない趣味ある圖だ。

旅館に歸つて番頭さんに小聲でトイレットはと聞くと、大きな聲で

「ハイ御便所御案内!!」

婦人に聞こえないといゝがと赤面して居ると平氣な女中が

「ハイ、こちらへどうぞ」

愈々面くらつたが婦人に失禮にならない様に一度室へ歸つて改めて行こ

寫眞しゃしんにはチャプリンが洗濯せんたくを干す綱つなの上を渡つて居る

「下宿さいくんどろの妻君泥棒はうかと驚いて……………」

違ふく洗濯せんたく婆ばあさんがアレ妾めかけの干した着物きものが動き出したといつて居る所だ。

ポケットが重くて仕用しようがない日本の貨幣くわへいの大きなには驚おどろひてしまふ、活動えんまつで五圓札ごえんまつを出して切符きふを買ふと澤山たくさん釣銭つりせんを呉れたそれを米國流べいこくりうにポケットにザクツト入いれたらチャプリンのズボンの様やうにダブくになつた試こころみに出して見ると一錢銅貨せんどうくわが實價二錢の一仙銅貨せんどうくわの約二倍はいある二錢銅貨せんどうくわは十枚も入れたら全く歩まけけない程ほどの大ききである、五錢白銅べいこくが米國べいこくの白銅實價べいこく十錢よりもまだ大おほきい、米國では白銅はくどうが普通に用もちひられる、通貨つうくわの最少せうしうのも

車が来る、横よこから自轉車が来る、後うしろからガタ／＼の自働車が来る危険極きけんきはまりない人道を人とほが通つてそれを車はしが走るのか、車道を人あゆが歩むのか、どつちか知らないが何しろ共用きようようじや、困つてしまふ。紐育下りの田舎者みなかものは勝手が違ふ事甚だしい。

活動寫真くわつとうしやしんに入つて見るとなつかしい米國べいこくのフィルムが出る、音樂おんがくがない代りに舞臺おほごよで大聲で騒いで居る男がある、日本語にほんごが完全に聞きとれない私は耳をすますと説明せつめいをして居る男である、その説明せつめいがフィルムに現れる英語えいごの説明せつめいと全く違つて居る、特に米國べいこくの習慣を話す點てんに至ると滑稽こっけいな事を云ひ出した。

「チャプリンが窓まどから窓へと針金はりかねを渡りまする、」

外遊中ぐわういうちゆうに日本の俾せんぶが全部ゴム輪りんになつて居つた、而しかしてリンりんと入口いりぐちのベルべるの様な音おとを立て、走はしつて居る。

往來わうらいを歩くと一向人々いっかうじんじんが私の顔かほを見ない、考へて見ると私は多年外國たねんぐわいこくで日本人にほんじん珍めづしさに顔かほを始終見られ通とほしであつたのに氣きが付つひた、反かへつて今度こんどはこちらから向むかが珍めづらしくなつて來た、といふのは日本人にほんじんが着物きものを着て歩あひて居るのは實じつに妙たぎな風流ふうりゆうな形かたちである、小股こまたで小走こほしりにチヨコちよこやつて居る婦人ふじんがたまらなくおかしく可愛かあいかつた、懷中かいちゆうに手てを指さしこんで前まへにかいみ勝かちにブーぶー／＼ムーむー／＼と小聲こごゑで唄うたひながら行く人ひとがある、それは吳服ごふく屋やの番頭ばんとうさんで義太夫ぎだうか謠うたひをうなりつゝ行くのである、と教をしへられて日本にほんは實じつに優やさしい國くにであると思おもつた、ヒヨイと氣きが付くと前まへから例れいのゴム輪りんの

る、親族しんぞくの人が私の父母からの手紙てがみを持つて來てくれた、その中に父ちちの筆  
で

道近しころばす戻れ雪の道

とあつた、これが日本にほんの俳句であると氣が付ひた、而して幼少えうせうの時に俳句  
は十七文字もじであると教へられた事も思ひ出して

家近し霞へだてて梅匂ふ

これを早速電報まっそくてんぱうで父に返句したのである、出迎でむかへの人が大笑ひをして呉れ  
た。

俚へんに乗つて變な反動はんどうのあるものであると思つた、それでも自働車じどうしゃの通ら  
ない小道こみちを巧みに走りぬけるには大いに便利べんりなものであると感じた、私の

の客の婦人室に九州の女が一人居つた、シアトル邊の勞働者の妻女であつたが、故あつて三つになる子供と生れたばかりの他人の赤坊を連れて日本に歸るところであつた。

「赤坊を預りまして困つて居ります」

その夜中であつた、彼女が急に船醫を起して赤坊の急病を告げた、醫師が飛んで行つた時は既に虫の息であつたが間もなく死んでしまつた、原因は大平洋の大氣に當てられた急性の呼吸器病であつた、この憐れな話に引き代へて、船中には所謂米國成功者も多く、黄金を持つた人も仲々澤山おつた。

航海十七日にして私は横濱に上陸した、愈々實際の故國に歸つたのであ

終るのである、途中一萬四千呎のシヤスタ山に汽車は暫時停車し、炭酸水の瀑布を見せ、乗客に炭酸泉の天然水を吞ませてくれるのである、森林ばかりで町のない此山間の小驛には、附近の谷川で獲れるトラウト魚を見せる、二尺以上のトラウトが硝子の中に游泳して居るのも珍しく思はれた、旅行と云ふよりは見物の爲の汽車である、私はやがてオレゴン州にポートランド市を見、ワシントンのタコマ市に到着したのである、これで私は米國の内二十七州を視、三十餘の都會や、町に約十年生活したのである。愈々米國の生活もこれで終りを告げて、メキシコ丸に搭乘したのである、同じ一等客の内に一人の獨逸人が居つた、彼は上海へ行く目的を以て居つたのであるが私は遂に其如何なる階級の人であるやを知らずに終つた、三等

仲々彼等の慧眼には驚いた。彼等の産地は廣島邊が多い様であるが、大抵言葉だけは東京メツキがしてあつた。

## 二十 シヤスタ山の天然炭酸泉

桑港々頭、日章旗を掲げた大汽船が停泊して居る。此海は既に太平洋であつて、向ふ側は日本である、私は加州に居る間は何か既に日本に歸つた様な氣がした。

私はこゝで大太平洋岸に沿ふて北米大陸を南北に走るネヴァダとカスカダ山脈を汽車で縦斷する事とした、景色はロツキー山脈の如く偉大であつた。汽車は延々たる長蛇の如く山を越え、峰を登りして一晝夜にして此旅行を

の邸宅ていたくの前を通る時に龜甲萬の醬油しやうゆうの古樽こそんに西洋花せいやうかが美しく植うつくえられて居るのを見た、加州かしょうに日本人せいかうじんが成功せいこうしたその上に花はなが咲さひて居るのである。

夜、立派しなまな支那町しなまちを見有名はくちな博奕場はくちばを見た日本人たくさんかの澤山たくさんか居る町へ來ると何か昔聞むかしきひた様な音ねがする、非常に懐なつかしい氣きがするから考かんがへて見るとそれは三味線みせんの音ねであつた。私は遂々つひ三味線みせんを忘わすれて居たのである。そこで日本にほんへ歸かへつた様な心地こころちがしてそこの三階建さんかいけんの洋館やうくわんに飛とび込んで見ると日本にほんの藝者げいしやが四五人洋装やうさうで出て來た。

「フレスノの田舎みなかで百姓ひやくしやうをして居をつたなんてよく仰おつしやいますね、紐育きよいくから御出おいででになつたのでせう、とにかく東都いーすとの方かたですわ、時計とけいの鎖くさりが違ちがひますよ、」

はありません。』

砲臺ほうだいの臺石でパイプをコツ／＼とはたきながら、煙草たばこの糟を落してニタ／＼突つて居る、私は今更ながら米國は大きいと思つた、米國は實際恐ろしい國である。

日本領事館へゆくと、京都府から辭令が來て居つて歐米各國で何々を調べてもらひたいと書いてあつたが、歐州は先づ見合す事にした。

桑港から汽船で對岸のオークランドに渡つた。汽車や自動車も共に汽船に乗せられて渡るのであるが、米國では大して珍しい事でない。今に日本にも關門や朝鮮海峽に出来るであらう。美しい山の中腹にカリホルニア大學を訪ひ日本人の留學生に加州の學校や勞働界の話を聞ひた、牛島甘芋王

「此齒車を廻すと面白いのです、大砲が砲口をヌット上に突出して一發ドーンと打つのです、而して出した首をヌク／＼と以前の場所に入れるのです、飛すこうして入つて居ると港の軍艦からは絶対に大砲が届かないのです、飛行機が來たらどうするつて、上を御覽なさい山に被はれて爆彈は自然に防禦せられて居るのです。

「寫真ですか、御撮りになつてもよろしい、あなた失禮ですが貴君方の寫真機でバチ／＼御撮りになつたつて軍事上大した有力な寫真は出來ませんよ、懷中時計に仕掛のある寫真器でモット秘密の所を寫した寫真が各國の參謀本部にザラに有りますよ、觀光客が旅行用の寫真機で光線がどうか動かずに居れとかいつて御撮りになつたつて大丈夫ですよ、決して心配

して大工は洋服やうふくを着て居つたが頭あたまに入いるをし木曾節きそくか何かを鼻唄はなうたでやつて居つた。どうも日本人は表面へうめんの着物を換へても頭あたまだけは換へられないものらしい。而して口には祖國そこくを唱はないとどんな仕事しごとも出来兼ねるらしい。それから金門公園きんもんこうえんや砲臺ぱうたいに登つて見た、金門灣きんもんわんを一目ひとめに眺め得る位置ちゐに大砲だいぱうが列ならべられてある、自働車じどうしゃを乗り入いれると大砲だいぱうの前方ぜんぱう左右さゆうが自由じゆうに見られる。

「此大砲だいぱうを御覽ごらんなさい山やまにかくれて港みなとからは全く見へない様ように出来できて居ゐります。」

案内あんないの米國人べいこくじんは私わたしといふ日本人にほんじんに秘密ひみつも何もさらけ出して説明せつめいしてくれ  
た。

在る所など散歩した時は實に心持が良く、日本の四五月の頃と同じに思われた。私は第一流のホテルや、末流の料理店で食事をして見たが別に日本人を排斥する氣配もなかつた。桑港の市街は往年の大地震以來非常に立派になつた。全市を震害で潰されたのであるから後の市區改正などをするのに反つて好都合であつた。家でも町でも一と思ひに潰すと、後は早く立派に建つものである。破壊は従つて進歩の第一階である事が多い。

社會的改革や人心改造なども、桑港の大地震式で決行すれば反つて結果が良好であるのかも知れないが、さて實行は出來難いものらしい。櫛引氏の自働車で世界大博覽會の敷地を見て廻つた。日本から寄附した日本家屋があつて日本から輸入した大工が修繕をして居つた。例の排日問題を氣に

府の誇ほこりであらう。白い壘石の敷しかれた入口や、南洋なんやうの樹々影美しきパンガロー式邸宅しきていたくや、冬知らずの青芝等加州民あをしはとうか しうみんの豊かな生活も察さつせられた。何しろ十年に全人口ぜんじんこうが二倍に増加ぞうかするといふローサンゼルスことの事であるから、商業區等も仲々立派うっぱで、而して、若々わか／＼しい。私は日本人街に案内あんないせられてそこで幾年振いくねんぶりかに日本の汁粉しるこを味つた。而して、日本人にほんじんにヒョイ／＼町まちで會あひふのを非常ひじやうに珍めづしく思ふた。あまり上等じやうとうでない洋装やうさうの日本女にほんをんなが二人切りふりまはに御辭宜ごじぎをして居るのも見た、洋装やうさうの時は腰以下あたまに頭あたまを下げない方が良いい。

桑港さうかうも氣候きこうの好い所である。時ときしも一月いちげつの初旬しよじゆんであつたが、外套がわいとうを着きずにステツキを振廻ふりまはしつゝ、パレスホテルぱれすほてるを出いてマーケット街しちやうの邊から市廳しちやうの

## 十九 加州の黄金境

ネバダ州の奇勝きしやうは實に見ものである。五色の斷崖だんがい數哩すうまい續くあたり、山の姿や岩の色いろなど他に類たなく全く造物主ざうぶつしゆの遊び場所と私は思おもつた。加州に入ればカリホルニア松まつの趣も面白く、四季きの草花さうくわねんぢうた年中絶間なく咲き、氣候の温暖わんだんなると、熱帶植物にに似たるものが多い爲に如何いかにも温い南の國へ來た様な氣かする所ところである。山には金礦きんくわうあり、野には黄金色こがねいろのオレンジあり、金門灣の名一層そうか加州しうの黄金州なるを思おもはしむるのである。

ローサンゼルスで私はバルム樹しけの繁れるを特に有難ありがたく思ふた。住宅街に年古としふるいバルムやソデツの幾抱いくかへもある大樹の並び立たつて居る邊り、實に羅

ルモン宗徒しゅうとの内には今尙以前の習慣しふくわんによつて秘密ひそみに一夫多妻よたさいを實行して居る人もあるらしい、これを宗教しゅうけふとして認めて居つたのであるから米國べいこくも面白い國ではありませんか、

一寸面白ちよつとおもしろいが大した事でもない、吾日本わがにほんには畜妾ちよくせと云ふ制度せいどがあつて……と私は云ひかけたがこれは帝國ていこくの耻かたじけなくにならないとも限かぎらないから餘計よげいな廣告こうこだけは見合せた。

身投みなげや心中しんちゆうが出来ない程多量たうりやうの鹽分えんぶんを含む鹽湖しんとれいきの岸ぎしに偉大ゐだいななる堂宇どうむを建てたモルモン宗しゅうだいほんざん大本山ほんざんも、日本人にっぽんじんから見れば大本教おほもとけうよりは、その教理けうりに於て、むしろ平凡へいふんである。

の如くに見える一片は、三四種の植物性しよくぶつせいのものを合せたので、味あじといひ滋養じやうになる點てんといひ全く肉と同じですが、肉に含まれた一種の毒素どくそだけがないのです」

仲々なか／＼珍しいめづらいそうして甘いものであつた、菜食普及同盟會さいしよくふきどうめいくわいの發賣になるもので罐詰になつて居つた。

X X X X X X X

私はシカゴを出發しゆつぱつしてイリノイ州を通りアイオワ、ネブラスカ、コロラドの三州を横斷わうだんしてエタ州に入つた、そこでソートレーキ市の有名いうめいなるモルモン宗の大本山だいほんざんを見た、一紳士の曰く、

「吾米國は法律はふりつを以て既に一夫多妻又は多夫一妻たふさいを嚴禁して居る、然しモ

ます。」

そう病人を虐めて下さるな、私はあなたの信條の大部分は賛成ですといふと、B女史は顔を和げて、此私といふ醫師の憐れな御客様にアイスクリームを持つて来てくれた。

X X X X X X X

M夫人といふのがある、米國人と支那人との混血人である、これは近時米國流行の菜食主義者の一人である、日本人は西洋人と云へば肉ばかり食ふものと思つて安い西洋料理の事を聯想するが、實際の西洋人は割合に肉食をしない、私はM夫人に迎へられて、ある日夕食を御馳走になつた。

「このストップは野菜物の脂で造つたもので、この肉の様な味のする又牛肉

腦に入り込んだと醫者に報告せられても別に醫者には爲すべき術もないのです、あなたは醫者から報告だけ聞ひてどう遊ばします？ 醫者は治すのではなく單に番人をしてゐるのです、それに高い御金を其醫者に御拂ひになる！」

イヤハヤ痛む耳に一層よく響く特に最後の一言は全く致命傷である、耳の痛い事甚だしい。

「その硝子瓶は何ですか薬ですつて消毒薬ですつて、よくそんなもので耳を御洗ひになりますねなせ水で御洗ひになりません、水は神の與へ給ふ最も清いものです、あなたは水を御呑みになりました、御呑みになる程清い所の神の水があるにもかゝわらず、なせ醫師の力のない薬を御用ひになり

私は實に當時毎日屋内海水浴をやつて居つた、それ故多少水に飛び込む度數を過して耳に水を入れ、その罪で中耳炎に侵されて居るのである。

「あなたは今の醫者が、その病氣を治し得ると御信じてですか、」

こいつは急所をつかれたわい、實は私も毎日／＼醫者が自働車できて私の耳の穴に綿を入れ代えて置くだけではあまり効能がなさそうなと思つて居つた所である。

「中耳炎は重病ですが云はゞ耳の内に出来た小腫物に過ぎないので、これが小さい耳の中である爲に外科治療が出来ず、自然に膿み自然に治るのを待つ外に醫者は何も出来ないのです、醫者は毎日診察して是が奥耳炎にならない様又腦に影響を及ぼさない様に監視して居るのですがさてかりに

あるところ信じてゐるのである。當時不幸にして私は中耳炎を病んで引き籠つて居つたので、憐れ私はB女史の信條に照らされると罪人となるのである。

「メヤガワさん………」

宮川でもメヤガワでも發音はともかく、大分B女史の調子が異ふ。

「あなたは基督者科學派の說に御賛成はあくまで出來ませんか？、それはともかく、神は此世を完全無缺のものに御造りなされたのです。然るに裁判所や、病院の必要を感じるに至つたのは、全く人といふものが罪を犯す様になつたからです。」

病人を犯罪人と同一視せられるのは少々恐縮だが、一理ないでもない。

主婦は、大統領と雖も、論談し批評してゆく所、實に素晴らしいものである。私は主婦の話を好んで聞ひた、主婦も政治から、宗教から、風俗から、教育から、人種問題も、社會問題も、活動寫眞も、牛肉の相場も、あらゆる方面に語り及ぼし、毎朝話題を代へて私に接して居られた。是には主婦獨特の決論を加へたが、とにかく五十に餘る婦人の身で凡て論斷してゆく所は流石は米國であると感心した。

同じ家にB女史といふ米國年増が私共と同宿をして居つた。基督者科學派で普通の信徒の如く、聖書を以つて教會へ通ふて以て得たりとしてゐる連中とは少し其趣を異にして、神に信仰すれば社會は凡て完全にゆくもので、病氣になるのも神に信仰が足らず、故意にか無意にか罪を犯した故で

屋借をしたり、その外、各國人の家に起居して見たのである。シカゴは遂に猶太人の家庭の人となつた。五十餘りの主婦は非常な雄辯家であつた。教育といつては別に無かつたであらうが極めて博識多才で日本でならば有力なる婦人論客となる可き人である。

「米國第十三代大統領ハリソン氏の事を御存知ですか、」主婦は毎朝毎食のテーブルで私に話しかけるのである。

「ハリソンは獨學で以て一國の元首となるまでやり擧げた人なのです。米國の大統領は多く獨學の人です、リンコーンの幼時の獨學は有名なものでこれから見ればワシントンは幼少の頃既に他日有用の材になるべく相當の教育をうけて居つたのである。」

の工場を視察し、親しく大工業の實況を視ると共に、米國勞働者の生活を見て大いに學んだのである。

## 十八、耳が痛い

ピッツバーグから夜汽車で、シカゴに入つたのは翌朝の九時であつた。停車場で工夫人に迎へられ、同市に四泊の間懇切なる御世話に預かつた。私は永年在米の最後の一幕としてシカゴは永く記憶するのである。

此歸朝の時ではなかつたが、その前の年の二月から十一月まで私はシカゴの或る猶太人の家庭に下宿をして居つた。一體私は西洋人と生活を共にするのが好きで、それに好奇心と、研究心とが手傳つて、獨逸人の家に部

異なるものではない、脊廣せびろでも代議士だいきしは代議士だいきし、フロツクでも車夫しゃふは、馬丁ばていと同格どうかくである、私は上院じやういんの食堂じやうたうで愉快えきげきに議員諸士ぎいんしよしと食事じやうじを共にした。自由じゆうではあるが、米國々會しんせいは神聖しんせいであつた、それから日本にほん大使館たいしきくわんで、珍田伯ちんたはくに會つてこの話はなしをした、歸りに國務省こくむせうの入口いりぐちでブライアン卿きやうに出會であつた、これも田紳然でんしんぜんと自働車等じどうしゃとうに乗らず脊廣せびろでテク〜とやつて居つた。

ワシントン首府しゆふより北西きたせい、鐵路數時間てつろすうじかんにして工業の都みやこ、ピッツバーグ市しに至る、何しろ鐵てつと、石炭せきたんの無限むげんの産地さんちたるペンシルバニア州しやうの物資集散ぶつししふさん地ちであるから、勞働國らうどうこくたる米國まいこくの勞働都會らうどうしやである、町まちを歩んでも勞働者らうどうしやの數かずの多いのと、而してしかそれが立派たてはなな服装ふくさうをして居るには何人も驚おどろく所ところである、私はピッツバーグたいていざいちう滞在中たいざいちうに近傍きんぱうのジヨネット市しに米國板硝子製造會社まいこくばんせうしよせいぞうかいしゃ

ームがある。各國かくこくからの代表者を迎える立關けんくわんにふさわしいものである。ワシントンのみは他の米國各都會べいこくかくとくわいの碁盤目の實用的であるに反して、中央政廳ちゆうしんを中心として、互光式びじゆつてきの美術的なるものである。街路がいろも美しく、政府の各省の建物も壯麗さうらいである。大統領の官舎くわんしやである白亞館や、ポートマツク河畔かはんの記念塔きねんたふも見ておけば、後に話の種たねになる。國會議院は實に天下第一の立派なものである、但し案内あんないも紹介もなしに出入自在しゆつにふじざいであるのは流石さすがは平民國である。折しも開會中かいかいしちゆうの上院を見ると、「前席ぜんせきの辯士オハイオ州選出しゆうせんしゆつの紳士しんしの御説ごせつによりますと」といふ如何いかにも紳士的句調しんしてきくうてうで抗議かうぎして居る、「政友會せいゆうかいの馬鹿野郎はかやらう」だとか、「こら低能引ていのうひつ込め」などといふ東洋君子とうやうくんしの言葉は聞けなかつた。議員ぎいんは凡て脊廣服せいはくである、然し人間にんげんは服装によつて品格ひんかくの

私はシカゴ滞在たいざいちう中に突然歸朝すべき事こととなり、一と先づ第二の故郷こきやうとも、私の米國での根據地こんきよちとも云ふべき、ニューヨークに引き移りひうつ、各種の準備じゆんびをし一月二日住すみなれた紐育大都を後に、出發しゆつぱつしたのである。而して或ある用務ようむを帶びて東部、中部、西部に渡わたつての各都會を訪問ほうもんしつゝ、日本へ歸る事としたのである。

紐育の南、數時間すうじかんにして、フィラデルフィア市に遊ぶ事あそが出来る。自由じゆう獨立記念堂どくりつきねんだうに祝いわひの破鐘はしやうがある。ワナメカー百貨店くわてんと、ペンシルヴァニア大學だいがくとは見て置くべきである。バルチモア市しに行ゆけばジョンホプキンス大學だいがくを訪とふべきである。

首府しゆふワシントン市の停車場ていしやちやうには、柱はしらもない、數町見渡すうちやうみわたせるブラットフォ

の間でも評判は非常に良い、たゞ自らあまり上手でないといふ處の唄はそれではどれ程上手に唱ふかはまだ聞かないから私は知らない。島津牧師はシカゴ日本人の爲にそれこそ實に献身的に活動してゐる人である。シカゴに滞在する日本人は勿論、漫遊客として通過する同胞も多少ともに皆、島津牧師の世話になるのである。

シカゴの近くにミルワキー市といふ一都會がある。その傍にワ、トサと稱する村がある。私は此村で、盛夏の數旬を送つた事がある、シカゴを始め皆此邊は北米印度人の命名した名をそのまゝ用ひてゐるのである。シカゴは「四か五」と云ふ日本語でもあるまいが峯母とか門棚とか北米の土語は日本語の發音によく似てゐる、土人と日本との關係が愈々面白く思はれる

増田實業の日本社長と、大阪商船の村田重役と、領事來栖三郎氏と、基督教青年會主事島津岬氏とである。高田、増田の兩氏とは、私はシカゴで或る實業に關係して居つたので、一晚ホテルで愉快に話した。村田省三氏はシカゴ駐在員として滞在中、時折、出合つて將來大阪商船會社を負つて立つ抱員を聞かされた。來栖領事はその官補であつた時代からの知己で、美しい米國婦人と結婚して、シカゴでその發表があつた。夫人とも年來の知友であり、領事夫人となつた後も、その官邸に度々招かれた。

「私の名はクルス、即ち伊太利の聲樂家カルソと發音が似て居りますが、唄を唱ふ事は私はあまり上手ではありません。」

來栖氏はこうした愛嬌のある、英語演説が上手であつた。而して、白人

あるのである。又日本との問題は日本人が今少し世界人類の爲めに盡す人種にならない限り、根本的の解決は出来るまいと思ふのである。日本人が軍閥や、血閥に支配せらるゝ間は日本人は世界の儘子になるのである。市伽古市の中心を歩いてデパートメントストアや、小賣店のならびたる所を通れば通行の人の多いのに一驚する、ステート街は、米國でも他の都會にない人通りの多い所である。是を一見しても私共は、シカゴの都市問題の騒しいのを知り得るのである。

## 十七、北米土人の祖先

シカゴで五人の面白い日本人に會つた。歐米漫遊中の高田文部大臣と、

れ、鶯は家に飼はるゝも、蛙は罪なくして小兒にも殺されるのである。黒  
 人の善悪や、社會に對する功罪を問ふ前に、人種的偏見によつて彼等は先  
 づ好まれないのである。人種的偏見は人間の通有性である。日本人の排斥  
 せらるゝも經濟問題や、宗教々育や、政治上の問題ではなく、主として人  
 種問題である。恐る可きは人種的偏見であるが、黒人が白くならない限り  
 此問題は絶えざる可く、日本人が日本人の思想と皮膚とを持つてゐる以上  
 排日は止むまい。只黒人が非常な善良の人種とならば兩者間の感情はやゝ  
 緩和されるだらうし、日本人が日本の爲めのみならず、米の上下に非常な  
 貢獻をする所あらば、少しは歓迎せらるゝ筈であらう。今や米國上下の  
 問題は、この繁殖しつゝある黒人種を如何に善導し、而して善用せんかに

彼等は文化の爲には大した事蹟をあげて居らない。彼等の仲間にはブーカ  
 ーワシントン博士の如き大人物もあるが、一般に白人よりは劣つて居る様  
 である。又彼等の中には音楽の上手なものもあるが、全體としては日常の舉  
 動が下等である。彼等は盜癖があると稱せられ、特に男女間の性的道德に  
 は甚だ缺陷がある様である。然し、白人は彼等を劣等視し、罪人扱ひし、  
 差別的待遇をする結果、黒人は益々墮落し、而して白人に對して非常なる  
 反感を持つて居る。白黒兩人種の混婚は禁せられてあるが、白婦人にして  
 好んで黒奴を秘密に迎ふるやの評も聞ひて居る。黒人が白女を姦したりと  
 の故で野蠻極まるリンチに處せられ、白人の爲に公衆の前に非人道的の火  
 炙にされる事も度々あるのである。蝶は人に愛せらるゝも、蛇は人に嫌は

ニゲロッパロレン  
 黑人問題は米國の最大の人種社會問題である。未開のアフリカに無辜の

黒色人を捕えて豚の如く米國に輸入し、これを物品の如くに賣買し、これ

を牛馬の如くに酷使したのであるが、正義と、平等とを稱ふる、リンコル

ン大統領等の主張により、南北戦争までして是等の奴隸を自由の民に開放

したのである。爾來、黒人は農地に、工場に、よく米國のために働き、南

部諸州には黒人のみの都會も多く、米國全土に渡つて労働者として、主と

して、ホテルや家庭の使用人となり、其他の掃除人となつて働ひて居るの

である。黒奴の人口は白人の十分之一に當り、尙彼等は北米印度人の如く

減少する人種ではなく、白人よりは優れる率を以て、年々益々繁殖しつゝ、

あるのである。彼等黒人は労働によつて國家に盡したが、人種的に痴鈍な

呑んだり、實に不思議な風習をシカゴに移入せられるのです、私は先づ是等の部落の衛生に注意し、娛樂の道を考えて、罪惡から離れしめ、小兒の普通教育普及を計り、女に手仕事を與へ、此頃では一家の主人から妻や他の青年男女にも夜學に通はす様にして居ます。慈善はよく偽善になりますから、可成彼等の自給になる様計つて居ります。當フルハウス經營の乳兒預り場、及び幼兒の遊び場所を御覽なさい。」

私は種々の統計や、實際の設備によつて、大シカゴ市の社會事業の極めて發達して居るに感じたのである。此複雑なる大都會にして、此社會事業ありて初めて文明都市に生命あるものと知つたのである。是なかりせば、都會は單に罪惡と、腐敗と、死との製造地たるに過ぎないのである。

その幹事曰く、

「御承知の通り、シカゴ面積の廣い都會です、紐育の如く、家が高く上に發達しないで、四方に廣く發展して居るのです。而して、市内には廣大なる猶太人町と、之に劣らない伊太利町と、非常に多きな黒人部落と、場末の貧民窟と、支那人街とがあります。いづれも貧困と、罪惡の源泉地しやくわいきふさいじげふと、社會救濟事業の最も大切な所です。利己主義りこしゆぎで國家的の觀念くわんねん無く、社會主義者の多い猶太人や、南歐シ、リーの血を享けた短氣たんきで、殺傷せつしやうを好む無政府黨員の少なくない伊太利人を、物質ぶつしつてき的にも精神的にも良い方に善導するのは、仲々の事業です。支那人の仲間には、博奕はくちやが盛さかんに行はれる、而して、私共には不可解ふかかいの罪惡が多いのです。變へんな酒を賣うりつけたり、阿片あへんを

十六、黒奴ネグロの話

シカゴ市は、米國べいこくの大阪である。中米の物貨ぶつぐわの集散地しふさんちで、鐵道と、煙と商人の都である。シカゴに大屠牛場たいとぎうばがあつて、一日に數百頭の牛うしを屠ほつむつて忽たちにしてこれを革かはと、骨と、精肉せいにくと、而して罐詰くわんづめにするといふ腥なまぐさい名所がアーモア會社等二三ヶ所ある。又印刷いんさつしたる型錄かたろくのみによつて、年額一億圓の小賣せうばいをする通信販賣メールオーダー専門の會社くわいしやが、シーアスルーバツクと、モンゴメリワードと二つある。旅行客りょこうかくの大抵たいていは見物けんぶつする所で、大抵たいていは感心かんしんする所であるが、何人なにびとでも知しつて居るから私は書かかない。今、私は貧民部落ひんみんぶらくの社會事業せうごうに成功せいこうしてゐるフルハウスに、幹事かんじの一人と話はなしてゐるのである。

として居る。而かも、何故にロツキ―を越へたる大平原に移民を送らない今日まで一人として、モンタナ殖民策を稱へたる人なきを悲しむ、私は此稿を大正九年夏八月、確信を以て草し、以て早晚來るべきこの理想の殖民地を、一日も早く識者に紹介したいと思ふ。殖民の事業には人あるべきも此日米兩國の數百年の大計の爲め米國上下の應援をうくべき私の確信ある仕事には、私も多少の道を考へて居る。ア、日米兩國民が永久に、而して相ひ共に、享く可き平和なる天然の幸福は、吾大和民族がロツキ―山を越えて、モンタナ大廣野を開拓するの大事業にありと信するのである。

本人は、暫くにして生産ある耕地とするを得るのである。然らば耕地となつた曉に又もや排斥をうけまいか、などと云ふ議論をなす人あらばこれ實に島國根性の説と云はねばならん。白人の加州開拓に、吾が移民は一部の力を致して、五十年を要したのから考へれば、此北米ワイオミングを開拓するには幾百萬の人が約二百年を要するのである。此地球上の一大版圖を、肥沃の耕地として米國に獻するならば、實に米國が日本よりうくる恩澤は非常なもので、そこに幾千萬の日本人を殖民して、米國天然の生産を増すならば、それこそ日米兩國民のうくる利益と、平和とは永久にして、且つ偉大なるものである。加州に排斥せられ、濠州に追はれ、支那に喜ばれず、南洋に迎へられざる吾移民は、今や、苦んで氷の西伯利亞に向はん

の大平野を注意して見ねばならん、東西南北不毛の地、人畜稀なる渺茫たる此大平野は、其一小部分が農牧の民カウボーイズによつて、時々馬蹄に踏まるゝ以外は、全く捨てゝあるのである。テキサス州に米を作る日本人村は、少しも米國から排斥せられない所から考へて、私は加州二十萬の日本移民が、此北部中、米のモンタナ州を中心としたる、ワイオミング州、南北ダゴタ州、及びアイダホの五州の大領土に轉住して殖民せん事を勸告したのである。米國横斷急行列車が三日間人を見ずに走る無限の沃野、多少のローリングあるも、之を開拓して不毛の原野を黄金色のオレンジ畑とし、赤きイチゴの栽培地とするならば、米國の上下は我日本に如何に感謝するであらう。此所多少風土の不便あるも、北海道に米を造り得る我日

中央公園にも氷滑りがあり、池の傍に日の丸の旗が冬の朝日に、チラ／＼  
ひるがへ 翻つて居る事がある。日章旗は米國では氷滑りの標章である。それでよ  
 く、我帝國の國旗と間違へられるが、珍田大使がプラザホテルに、滞在  
 ホテルは敬意を表す可く日本國旗を屋上に翻した所、日本にも土耳其やア  
 ルゼンチン共和國の國旗を知らない人が多い如く、自稱一等國の日章旗を  
 よく知らない米國の男女は、ホテルに氷滑りの餘興場が出来たと思つて、  
 朝から鐵靴をガチャ／＼と下げて集つて来たといふ話がある。

パファロー市に近く、ナイヤガラ大瀑布を見るのも旅行者には必要な事  
 である。而して、ミチガンの大湖や、ミシシッピの大河、さてはロツキ  
 ー山脈などもなんと偉大ではないか、太陽が草から出て草に入るモンタナ

氣を吸ふべきである、此汽船は遊覽船ではあるが、大海を航海する趣ある様に出來てゐる、私は航海をすると常よりは一層食物が甘く感じられる習慣がある、オゾーンに富む大氣の關係かとも思ふが、非常に空腹を感じる此汽船なども私と同じ風の米國人や英國人が居つて、夜遅くまで音樂の絶間のない食堂はなか／＼に賑ふた。

ニュージャージーの近郊にラサフォードと云ふ小都會がある。又紐育郊外にスターテン島と云ふ森林の多い田舎がある。共に一日の自働車での巡遊に適當である。驛遞の田舎ホテルに車を停めて、野趣ある食事をとるのも特に雅なものである。

冬は、ハツケンサツクの小都會に近く、氷滑りの適當な川がある。紐育

をより密接にし、實社會に活動しつゝある人に基督教の素養を修めしめた  
いと云ふ希望を持つ人である。又一主婦といふのは、郊外の屋根に草の生  
へた木造の家に往む人で、一夜、私はコーヒを此古い家で饗せられて米  
國獨立當時の堅固の精神や、且つは自由平等正義に基づく眞の米國魂につ  
いて、面白い話を聞ひたのである、場所が獨立革命戰の第一發を發砲した  
コンコードの村に近いただけに、私は一層奥ゆかしく、此物語を聞ひたので  
ある。ボストン市に遊んで必ず問ふべきは、ケンブリッヅ河畔の歴史に富  
めるハーヴァード大學と、詩人ロングフェローの舊邸とである。而して紐  
育に歸るには、鐵路よりは海路を撰び、僅か一晚の航海ながらロング、ア  
일랜드内海を通る汽船に乗るべきである、人間は時々船に乗つて海の空

乃伊が非常に澤山集められてある。今の科學を以てしても、到底眞似の出  
 來ない完全な、遺骸保存法によるので、見る人には珍しくもあり、且つ、  
 參考ともならうが、木乃伊となつて陣列せらるゝ本人は氣の毒なものだ。  
 中には、時めく國王や、花恥しい姫君のもあらうに、數千年の後に萬里の  
 異境の公衆の面前で、此有様はやがて私共現代の文明人が千萬年の後にう  
 く命き運命ではあるまいか、私共は墳墓等の立派すぎ堅固過ぎるのは考へ  
 ものであると思ふ。又此博物館には、日本で見られない程の日本博物館も  
 ある。私がポストンで交際した人で、此市の代表的人物として記憶したい  
 のは、州知事よりも、むしろ萬國基督教共勵會々長ムーア老博士と、或  
 る良家の一主婦とである、ムーア博士は基督教と今日の實際生活との關係

音は日本語のそれと、よく似て居る。

帝王學の貴公子も米國陸軍の略稱を以て内外に響く米國運動界の優者、印度人カレツチは元始時代の勇猛を以て天下無比と云はるゝ勇敢なる大チヤンピオン、試合は實に肉躍り血湧くと云ふ壯絶極まりなきものであつた而も勝利は遂に吾が褐色印度人の頭上に歸したのである。

紐育はこうした風の愉快な所である。

## 十五、日本將來の殖民地

ポストン市は、米國の京都ともいふ可き古い都會である。そして京都御所ともいふべきは、ポストン博物館で、こゝには、古代エジプト貴族の木

士官中隊が、赤帯の將校や、緑の帯の士官に指揮せられて行軍するのである、美しい麗しい事、ソヨ吹く風にコートコートの赤裏あかうちがチラ／＼と翻える。

その日、午後、士官學校のフートボール仕合があつた、相手は米國本來の地主である北米土人アメリカン、インデアンのカレツチ學生である。白人種が北米の地に殖民する以前からの住民たる北米印度人は、日本人の如く倭小で、皮膚は褐色である、今は僅かに日本のアイヌの如き運命にあるが、本來は勇悍にして敏捷な人民である、彼等は日本人が、昔、太平洋の黒潮に乗つて北米に漂着したものの、後裔であるとも稱せられ、少なくとも、その頃志を得なかつた日本の浪人や敏捷なる日本商人の國禁を犯して渡航した者の血が混つて居ると信じられて居るのである、彼等の言語の發

五百人ぜいたく贅澤な寄宿舎生活きしゆくしやせいくわつをして居るのである。私は或る卒業式まねの日に招かれて見物ゆに行くと、停車場から學校がくかうまで自働車ぎやうれつの行列で、いづれも上院議員ふがうや、富豪ふがうや、所謂紐育めいりやう三百名流めいりやうの家族達で、所々制服せいふくの學生らいきやくが來客を案内して居つた、招まねかれた父兄ふじんたくさんの人々も婦人澤山ふじんたくさんの一行で美しいが、學生の制服の美しさは仲々なか／＼の見物みものである、帽子は漆うるしの様な黒塗くろぬりで、これに長い羽毛を立て、洋服やうふくは青鼠色あざねで派出はでな蛇腹じやばらを付け、服の裏うらが赤である、コートの上から白しろい襷たすきを十字あやつに操り、赤革あかひの帯おびに銀の短劔たんけんを下さげた所はセクスピア劇アのハムレットせうこうし小公子せうこうしを現代げんだいてき的にした様なものである。

白亞やうの洋館やうくわんに緑ろくの芝生しばふ、そこで此貴公子ききこうしが數百人、正列せいれつして分列式ぶんれつしきをやるのである、軍樂隊ぐんがくだいの音ねが春はるの野のに響ひびき渡ると前記ぜんきの美うつくしい青服くろぬりぼう黒塗帽くろぬりぼうの

婦人がダイヤモンドの指輪をオペラの最中に失つて知らなかつたと話されても眉一つ動かさない位になれば、愈々ニューヨークのライフが楽しくなつて来る。

紐育市の上流にウエストポイントと云ふ勝地がある、そこに米國々立陸軍士官學校がある、これは貴族階級の無い米國での貴族學校と稱せられる學校で、つまり上流の子弟に高等教育は授けたいが工科へ入れては電氣屋の様になるし、法科へ入れては代言人になる、農科の百姓も困る、文科の小説屋も嫌だ、何とか金儲けと縁の遠い、而して文弱に流れない、且つ職業的教育以外の高等教育をと、これは米國でも珍しい考へで留學させるのが此國立士官學校である。帝王學の様なものでも餘裕タツプリの貴公子が、四

登る方が愉快ゆくわいだとなつて來る、兩岸の奇勝きしようを賞しつゝ、船ふねを進ますと名高い  
 ポーキブシーの町やコーネル大學だいがくのあるエサカ町、尙行なほゆけばニユーヨーク  
 州廳のあるバニー市と云ふ所ところを途中とちゆうで上陸して、ヤンカースの里さとちか近く詩人  
 アーヴィングの舊跡きうせきを訪とふ、と古い森もりの上に月が出る、こゝらが紐育の眞  
 生活せいくわつである。

例の世界せかい一と稱せられたヒツポドロム座には、男女優數百人だんぢやうに馬うまが何十  
 頭、象が幾匹登場とうぢやうし、五十間の大舞臺だいはうたいで紐育の大ホテルの火災くわさいの實況を見  
 せると云ふ所も紐育らしいが、それよりは、グランド、オペラに古典こてんてき的な  
 歌劇かげきを見て、カルソ一の美こゑしい聲を聞いた方が紐育の本當ほんたうのライフである  
 カルソ一の一晚ひとばんの報酬ほうしゆうが何百弗であらうと、又自分から誘さそひ合あつた連れの

あつて、それが繩暖簾式なほのねんしきのステークハウスで、客室と料理室れうりしつとが一つで、天井は丸太まるたそのまゝ、床は滑すべらない様に鋸屑おがくづが敷きつめてある中に、角材の椅子いすにかゝり、十八世紀の頃に流行りうかうしたらしい重い銀ぎんのフォークで、厚さが二三吋いんちもある血ながの流れるステークを食ふ。

「此肉も美味うまいが、イヤ此芋このいもは格別かくべつだ、」

など、子供の頭程あたまほどある大きなベークド、ポテトの陽氣ゆげがポツポツと上がるのを味あじふ様やうになるのである。

ハドソン河たいせいやうかんたいに大西洋艦隊たいせいやうかんたいが五十隻停泊ていはくして大統領の觀艦式くわんかんしきがあり、その當夜は總イルミネーションで艦隊が紐育市きよいくしに對して敬意けいを表するのであると教をしへられても、それを見るよりは、むしろ小船こぶねに乗り込んでハドソンを

事が往々ある。

此頃から、そろ／＼と紐育生活の妙味が解つて來るのである。第五街に自働車が五百臺も織るが如くに走つて居るのを巡査が手を一本擧げると立ち所に停ると聞いても珍しくない、中央公園の内には道路が延長二十哩あると聞き、長さ五十町の鐵橋がある、一日に四百萬噸の氷が消費せられる銀行の預金が七十億弗あるなど、云はれても驚かなくなる、機械で食事をする所があつて、肉血が飛んで來る、コーヒーがパイプの口から自然にコップの中に流れて來る、こんな所へも二三回行つて見ると珍しくない、それよりは昨日は蛙のフライを食ふたから、今日は牛の腦味噌を注文しよふと云ふ風になる、忙しい銀行町の横にこれは又、二世紀も昔の古風な家が

而して四十一、四十二と乗り換へなしに登るのである、勿論四十階邊で大聲で四十二と呼ばないと他に四十二階に用事のある人がない限り、見て居る間にツ、ツと登つて通過して、もふ。この急行エレベーターで下りる時は慣れない人は初めは何人でも身震ひをする、それは瞬間ではあるが自分の足とエレベーターの床との間に一寸、空嘘が出来、自分の身重が自分の足を通じてエレベーターに乗つて居らない僅少の時間があるからである震ひ上るのも無理はないが、三年五年と紐育に居る中にはエレベーターは勿論、總ての紐育式の忙しさに慣れてしもふ、慣れた時は自分が既に紐育流の氣忙屋に傳染してしまつて居るのである、よく日本から來る舊友が紐育で久し振りに會つて何となく氣違の様になり、忙しい人になつて居るのに驚く

といふ思へない程スタイルが良く出来て居つた、これこそ當時音楽を學んで居つた高木徳子其人で、後に日本でトーダンスの第一人者として東西の舞臺に名を擧げた人である。

## 十四、愉快で面白い生活

世界第一の忙しい所は紐育である。紐育人は天下無類の氣忙屋である、汽車に乗つて斬髪をやらせつゝ、新聞を片手で読み、片手は爪掃除をさせてその上に足許に黒奴を屈ませて靴を磨かせると云ふ人間である。數十層の摩天樓に登るにエレベーターが五十本もあつて、それに十階までは急行といふのである、かりに四十二階に登らんとする人は四十階まで急行に乗る

國民黨幹事堀川代議士とはコロンビア大學の食堂で毎日氏の理想選舉論を討論したのである。學者では京大の比企博士を病床に襲ふて、終日話し込み、慶應大學の田中一貞教授とは暫し居を同じうして相共に研究し、水産講習所教授妹尾秀實氏とは氏の方面違ひの社會家政策について痛論した事もある。

ある日本人の料理店で久し振りに故國の珍味を味つてゐると、そこへ現れたのが一見猶太人の小娘の様に見える洋裝の日本婦人であつた。

「毎日、第五街を小犬を連れて歩くのですよ、犬は可愛い、白のテリヤなのですが、革の紐でキツドの手袋がこんなになつてしまふますのよ。」  
美しい手で小さい手袋を見せたりした、服裝もクツキリ身について日本人

い一寸の半分位しかない豆時計の完全なものを二打も買つて居られた、日本への御土産として流石は氏の達眼であると私共は感心した。

前同志社大學總長の原田助氏、神戸高等商業の日野眞澄氏等も熱心な米國研究者であつた。勿論此人達は、嘗て米國で學び、再度の視察の旅行であるから、要領を得てゐるのである。忘れる事の出来ないのは今は故人となられた成瀬女子大學校々長である。私は成瀬氏とは親くして米國の家庭や婦人問題について御互に話しあつた事がある。想へば或る夜、二人が地下鐵道に同乗して氏の日本婦人思想の統一に就て意見をきいて別れたのが最後であつた。代議士田川大吉郎氏とは米國と日本の政治道德を比較して相語り、京都の風間代議士とはポストンの政廳や博物館を共に見物し、

「それにケースが少し舊式なのですから……」

此富豪は風彩の上らない人であつた、而して常にそれを自ら氣にして居つたのであるが、店員が高價すぎるからテツキリ自分に見せなかつたものと邪推して、非常に憤慨した。

「日本人だつて是位の時計は持つよ」

とか何とか云つて此ブラチナの舊式時計を數百弗出して買つてしまつた、つまり妙な所へ大和魂を發揮したのであつた、然し店員は變なお客と思つた、而して日本人は仲々金満家が多いとも、好みが濫いとも思はなかつた。唯 A 氏は島國根性を出して數百弗の損をしたに過ぎなかつたのである。

時計で思ひ出すのは京都の島津製作所の島津源藏氏である。同氏は珍し

現今では内務省囑託である牧野虎次牧師と大阪萬年社長高木貞衛氏などは米國の事情に精通して居らるゝから各々専門の方面は充分有益に視察された、海老名彈正師や、植村正久牧師等も比較的永く滞在して私達にもいゝ機會を與へられた、大堀牧師等が案内したのである、全體宗教家の旅行は米國では非常に便宜を與へられるものである、中には日本からの視察談に面白い話の種を播いて行く人もある。Aと稱する富豪が紐育に來た時、さる有名な時計店で、飾り棚の隅にある變な舊式の懷中時計に眼をとめて、あまり上手でない英語でそれを見せてくれと云つた。

「あれはあまり良くありませんよ、」

店員は云つた。

光線の都合か何かで、殿下が折角御椅子にあらせらるゝにもかゝわらず、妃殿下を御先に御撮影するから御椅子を御交代願ひたひと云ひ出した。

「流石は婦人第一の米國だな」

殿下には御高らかに御笑ひになつて、自ら妃殿下を御招ぎ遊ばした。

懼れ多くも皇族の御方にして然り、華族や名門の連中に於ては足一歩日本を出て、不案内の米國に來れば、門戸開放赤裸々となるものである。

水野總領事の如きも醉香と號して俳句をよくし、在留同胞とも親しく交際したものである、私の如き、或種の證明書を受るに極めて簡単に郵便一本の申込で配布をうけた事がある、海外では日本式御役所風も外國化するのである、放膽な水野總領事も今は惜しくも故人となつた。

いのを教へられて共に見物けんぶつにゆき、又親またしたしく米國の内の生活ないてうせいに付ついても智識ちしきを興あたへられなどしたのであつた。

### 十三、渡米日人のいろく

洋行やうかうするとハイカラになる。米國へ來ると、デモクラチックになる、例へ在外中だけでも開放かいほう的な世界主義になるものである。周圍しうみの感化は實に恐ろおそしいものである、おそれ多い話であるが、久邇宮殿下くにみやてんかが妃殿下御同伴ごどうはんで、御渡米ごとべいなされ、ホテル、プラザに御滞在中一日、御記念ごきねんの爲とあつて寫真師しゃしんしをホテルに御招ごまねぎになり、殿下と妃殿下との御撮影ごさつえいを御下命ごさつめいになつた事がある。何がさて米國べいこくの寫真師の事であるから、遠慮えんりよがない、そこで



が如く貴く思ふ貧民が幾百萬人あるに用ひきれない廣大な土地を捨て、居る富豪などは實に大罪を犯しつゝあるのである、貧富の差が今少し平等になれば世は今日よりは數層倍幸福になるであらうとも云つた。

某日、R女から私に電話で今夜社會主義者の俱樂部に案内しようといふ誘はれ二人で行つて見た、こゝで私は種々の階級の人々に會つた、男も、女も老ひたるも、若きも、いづれも私に社會主義を話してくれた、然し彼等は私が想像して居つたよりは總てに於て貧弱であつた、彼等は社會主義の書物をすら多く讀んで居らないらしい、只表紙の赤い單行本を切りに耽讀してゐる、而して自分や自分の周圍の人々に當てはめて見て社會主義に憧がれて居るのである、俱樂部の會員は主として猶太系の人々であつた。

婦ならぬ男女の組もある、皆々男女の二組で足並揃へて行く様は彼等自身から見れば、甘く天國を散歩するのであらう。若し夫れ男ゆみの連中あらばこれは不自然な一行であつて、更らに男一人の通るものあれば先づ危険性を持つた不良の徒である、かりに女のみ一人ゆくあらば將に賣娼婦と斷言しても十中八九は誤り無からう、夜の公園は男女二人でゆくものとなつて居る。

R女の説は何處までも若かつた、然し眞面目であつた、而してそれが若い少女の社會主義であるから私は面白かつた、R女は、紐育には一室に五家族住んでゐる貧民がある、然るに某々大富豪は一日に自働車で巡り切れない大原野を遊ばせて所有してゐるものがある、又一吋の空地をさへ饑る

池には蓮や、百合が咲ひて居る、白い花が暗に美しく浮て見える、R女の言葉は續く、

「その勞資の割合が甚だむつかしい様で極めて簡單なのであります、理由なき高率を資本主に與ふる筈はないのです、一人前の人が一週間に六日働き、一日に六七時間勞働してその報酬として一家を構え、子供の健康に必要な食物と娛樂とを與へ、その成長するに及んで高等普通教育を授け、親が五十歳になれば子に養はるゝ事なしに後半世を無事に送り得らるゝ丈けの貯金が出来れば澤山なのです、資本主も是で澤山なら、勞働者もそれで澤山なのです、然し今日の社會は仲々是程公平になつて居りません。」

公園の夜愈々深く更けてゆく、靴音を揃えて通る夫婦者あれば中には夫



すね。」

R 女は自問自答して見た

R 女は勿論獨身の而かも清い處女である、其姉は三人まで結婚してゐるが R 女は決して姉達を羨しくは思はないらしい。

「一番上の姉が申しますのよ、女は結婚するとどんなに夫婦平等であると云つてもやはり女は男の奴隸になるのですつて、男が御金を儲けるでせうその御金は妻が半分家庭で儲けたのも同じですのに、男は全部儲けた様に考へて男の自由に之を使ふのですもの……」

R 女は生活の保證さへ得れば獨身生活が送つて見たいとも云つた、私は或る夜、R 女を連れて公園を散歩したのである、暗い森をトンネルの様に

へては悶々たる數十年を送つて來たのである、どうかこの同じ苦勞をせぬ様に息子に結婚を思ひ止まつて呉れといふのである、息子は自分の將來を考へ妻とならんとする女を思ひして實に深ひく絶望の淵に引き込まれる様に思ふて煩悶するのである。然し彼は天然療法によると或は全治するかも知れないといふ細い光明を前途に認め、若し根治出来ないものならば二人はこのまゝ死にたゑんと戀人を連れて遠く南洋の孤島に走らんとするのである。

私の友——彼女の名はR女といふ——は何度此息子が結婚を急ぐのであらうかと私に聞ひた。

「つまり結婚しなければ幸福な生活が出来ないと信じて居る人が多いので

い美少女があつた、髪を長く後に垂れて、手に米國の大國旗を持ち、蹄の音も軽く静々と進んだ所は永く私の眼底に残つてゐるのである。これこそ I、W、W、で有名なる幹部の一人で若き社會主義者として廣く米國に知られてゐる美少女である。

それとこれとは人は變るが、私は或る人の紹介で二十歳位の社會主義の少女と交際する様になつたのである、彼女と私とはブロード、ワエーのあゝる演劇を見に行つた事がある、筋は一富豪の息子がその戀人と結婚せんとしてその兩親から反對せられるのである、反對の理由は兩親が血を吐く様な思ひで語る所によると、其家は代々癩病の血統がある、それを父が母と結婚して息子が生れてから祖父から聞たのである、兩親は子孫の將來を考

か云ふよと見る間に姫御前のあられもなく、袴高々とまくしあげて舞踏を  
始めだした、他の女達も何か唱ひだした様子、ウツカリすれば女軍の一團  
に包圍攻撃でもせられては大變と、私共は逃げ出した。

病院の隣は州立監獄署である、私共はこゝの見學もし、三百の鐵房隈な  
く見巡り労働室、便所、食堂に至るまで一々案内せられた、肉と芋とを刻  
んだハツシユと牛乳にパンが其日の懲役人の夕食であつた。

## 十二、社會主義の美少女

絹布工場に同盟罷工のあつた時、數千の女工が隊を組んで紐育の町を行  
軍した事がある。その先頭に栗毛の駿馬に打ち跨つた、白の洋装の愛らし

も男といふものを中心として生活して居るのです。」

女天下の米國にして男主女従の此専門家の此言あり、大いに味ふべき事であると思ふた。

「女人館には一人の男も雇ひません、庭掃除の人夫が居るだけで、室内や廊下の掃除などは皆女の手でやらせて居ります、何しろ男を見ると大騒ぎになるのですからね、それこそ飛び付いたら離れやしません、それが一人や二人ならまだしも、氣違ひの強ひのが十人も、二十人も抱きついて御覽なさい、實際命懸けですよ、この柵の中は此世の男禁制の女護ヶ島ですよ。」

話を聞ひて居る内に一人の若い患者が私等の居るのを見つけたらしく、何

それから婦人部の方を案内してもらつた、然しそれは外から庭を見るだけ  
 けで男は絶対に館内に入る事が禁せられてあつた。

「ネー、御免なさい、あの芝草に集て居る婦人は、皆患者なのです、あの  
 長椅子に腰を下した連中も、あの木蔭に唄を唱つてゐるのも皆氣狂です、  
 此病院の調査によりますと婦人の患者は殆んどすべてが戀愛問題が原因と  
 なつて居るのです、良人の不品行に泣き、或は男の薄情を恨み、又は青春  
 の時代に失戀し、又は愛する戀人を失つたといふ風に、ネー、考へて見る  
 と男といふものは、罪なものですよ、つまり婦人患者は直接間接にも色情  
 といふ事が原因になつて居るのです、彼等は九分九厘まで、色情狂なの  
 です、要するに世の婦人といふものは男にのみよつて生きて居る、少くと

「この男は寝て計り居る男で、あまり寝過ぎて氣狂になりました。」  
 これは又反對に妙な男と見れば、如何にも蒲團を床に蹴り捨て、裸體で  
 大の字なりに寢臺の上でグー／＼と寝て居る。

「起きろ。」

看視人に身體をゆすぶられて、ハイ／＼と云ひながら、又寝てしまふ、其  
 時のやり方が私の友人のT君に良く似て居るので、二人ともクス／＼笑つ  
 た、その外靴をはかないと云つて駄々をこねる男もあれば、甘そうに果物  
 を食つてゲラ／＼笑つて居る男もあつた、何しろ米國では社會が複雑で、  
 且つ急激なる事變に度々相遇するから、狂人も多數出來、特に禁酒國にな  
 る以前の飲酒の害から、此病院に永住するに至つた連中が澤山居る。

十年の友の如く堀君と話しておつた患者もあつた。

「私の家内、そんなものは……。」

堀君が眞面目に相手になると患者はケロリとして居つた。

「ボストンの辯護士はまだ生きておられますか。」

恐ろしい眼付きで私に聞ひた男もあつた。

「これが病院切つての清潔好きの男で毎日毎時掃除ばかりして居ります、あまり掃除をして氣が狂つたのです。」

看視者の説明によつて室に入つて見ると、紳士然たる此掃除氣狂がおつた彼はネクタイを整然と結び、鐵窓の側に安樂椅子を持ち出して、これによりかゝつて讀書の最中である。

出てくる、中には偉大なる怪漢もあつて場合によつては亂暴もやり兼ねまじき顔付きのものもある。

「大丈夫ですよ。」

案内者は私にこう云つて、

「お前達は御客様の傍によるな。」

と患者に注意してくれた、二階三階と進み各部を巡視して行く内に、追々と慣れて来て氣狂が傳染したわけでもあるまいが段々恐ろしくなつて來た忘れて居つたが此日の私の同伴者は當時クラーク大學留學生で今の慶應大學の堀教授である。

「ヤツ、御氣嫌良ろしく、奥様は御變り御座いませんか。」

のである、一看視員かんしめんは親切あんないに案内あんないをして呉れた、病院は庭にに圍かこまれた五層ごそう樓ろうで、上から下まで總すべて患者かを以て満みたされて居る、各階かくかは右と左との二部に分たれ、中央は廣い廊下らうかで左右に十室づゝの居室きよしつが並ならべられ、一室に一人の患者くわんじやを收容しうようし、各室の廊下らうかに通つうずる入口は自由であるが、外を眺ながむる窓は鐵柵てつそくで守まもられ、其他廊下の要所えうしよは鐵柵や、鐵板で強つよく區劃せられてある。一部の南側みなみがはに四十人二部に分たれ一階かいに八十人、五階あるから全部で四百人收容しうようしてある筈で、凡て最早もはや全治の見込きんのない狂癲きやうてん病者びやうしやを一生涯いっしやうがいひ引き受けて置く所である、私費しひと州費とあるが、いづれも絶體ぜつたいに結婚を禁止きんしし遺傳いけんの危險けんが防ふせがれてある。

私が看視員かんしめんに案内あんないせられて廊下らうかを通ると、患者くわんじやが珍あづちしそうにぞろろと

ツツ州の州立で、ウースター市の近郊なる小丘の上に位置を占めて居るのである、一體、此州を中心とした五州を新英州と稱へ、米國の北東隅にあつて、最も早く殖民せられ、最も早く文化せられた地で、云はゞアメリカの頭腦とも云ふべき部分である。歴史上の大人物も多くは此新英州の内どれかの州に生れ、現今の偉人と稱せらるゝ人も多くは、此地方で教育せられたのである、宗教が盛んで、住民が上品で、氣風が温厚である。昔の殖民地時代から今日までも、米國に於ける英國と呼ばれた土地で云はゞ英國の保守的氣風と、米國の進取的氣象とを程よく調和して持つて居るのが此新英州々民の特徴であらう。

私は社會事業の最も完備した、此マ州の氣狂病院の玄關で案内を乞ふた

今一人の探偵は私に意味あり氣に云つた、私は是れ切り彼女の姿を此町に見ない様になりました。」

私の友はコネーの三人女を右の様に語つた、而して

「私は未だ清い童貞を所有して居ります」

と笑ひながら云ひ足したのである、私はそれを

日本青年とアメリカ女の一挿話として書いて置く。

## 十一、精神病院の婦人室

今日は方面を變えて、アメリカの癡癲病院の訪問記を書く事とする、此病院は此種のものとしては特に設備の完備して居るもので、マサチユース

「エッ、昨夜？昨夜は友達とオペラを見にゆきました。」

彼女のこうした胡魔かしの言葉は全く用をなさなかつた。突然一人の探偵は私共の前に表はれた。

「オイ娘、今直ぐ此コーネー、アイランドを出て行け、歸つてくると表向きにするぞ。」

憐れ彼女は此嚴重な命令に、住みなれた且つ生活の根城たるコーネーを去らねばならなかつた、私の不注意の一言は彼女の運命を左右するに足るのであつた、辯解すれば反つて表向きに處分されるだけである、女はシホくと淋しく残り惜し氣に立ち去つた。

「君注意し給へ注意を……可愛そうにね。」

けられない習慣になつて居ります、且つ賣淫は米國では犯罪の性質と家屋の構造とでほとんど現行犯を獲る事は不可能です、探偵は賣娼婦達の血を吸ふ無頼漢を嚴重に取締り、むしろ女達を間接に保護する形になつて居るのです、制服巡査は勿論此種の問題には關係できないのです、私の話してゐる女も探偵は勿論それと目星をつけて居るものゝ證據の擧らない限り其日まで無事にして居つたのであります。

二人の會話を聞くとはなしに聞いて居つたのは二三人の顔なじみの探偵でした、而かも其一人が私の後に居つた事は全く氣付きませんでした。

「どうだね、此頃の収入は？昨夜はどうだつたね？」

私は何といふ不用意な言葉を彼女に使つたのでせう。

前の燈火の様な危険に居つたのでした。

又女の話ですが、何しろコネーは女と金と酒の天下ですからね然し私の惚氣ではないのです、私と云ふ一日本人すら如何にコネー、アイランドでは女が付いて居るかを御話し致し度いのです、も一人は年の若い賣娼婦の話です、彼はデツブリと肥つた肉女的な女でした、其日は海軍の水夫服の様な白い洋服をきて私と話をして居りました、處がコネーには探偵が澤山おつて是等の賣娼婦の監視をして居るのです、監視とは妙な言葉ですが、つまり公園の便所は木蔭に持つて行つて隠して置けばよいといふ主義なのです、犯罪が表面にあらはれて公知の事實とならない限りは檢舉はしないのです、如何に探偵とは云へども犯罪の證據なしには米國では婦人に手をつ

彼は四十餘りの實に貧素な瘦せた、顔色の青く而して身には穢ない支那服をまとひ見るから陰險な男でした、察するに儲ける金の凡てを此女に與へてゐるらしいのです、女の話によると此支那人は全く英語が出来ないで平素無味な無言の生活をして居るので毎日私の所へ出て來て日常の事や何かを會話するのが樂みだつたのです、所が支那人がそれを嗅ぎつけたらしく若しか不義でもあるかそれとも女の手から私に何か品物か金でも贈る様な事があればと鋭ひ眼を私にむけて居りました、支那人は女にかけては命を捨てる位は何とも思ひません、彼はピストルを持つてその當時暗の夜等私の後をつけて居つたそうです、此コネーでは時々殺人事件があるそうです、加害者を見付け出し難ひ場所で、大抵は殺され損になるのです、私は風

て行つた、私はそれから未だ三十分も話したらうか、やがて側を通る一老紳士は彼女の身内で、もあつたか、二三、言葉を交した後、兩人とも私に挨拶をして過ぎゆきました、私は此不思議な美少女を勿論賣娼婦とは認めません、然し霧の如く夜蔭に去つた彼女は再び私の許へは來ませんでした。

別の女の話ですが、その當時私の所へ毎日、暇があると言はしに來た年増のグリーンキ婦人がありました、聞くと彼女はある支那料理店の一流のクックの妻だつたそうです、此良人なる支那人は調理上の腕が優れて居りましたから仲々収入が多く、此女などは白金の腕輪にダイヤの指輪、常に流行の衣服をきて生活なども仲々贅澤でした、或時其夫なる支那人を見ましたが

です、私も悪からず思つて相手をしつつも、そも何の爲に私に話をするの  
か知り度く種々と尋ねますとそれは話さずに、何んでもコネーの一料理店  
の會計を勤めて居るのだとか云つて三十分ばかり話をして居りましたが、  
そこへコネーでも有名な伊太利人のゴロツキがやつて來て

「お嬢さん、御歸りなら御宅まで御送りしませうか、」

彼は此娘をテツキリ賣娼婦と見てとつたのである。

「失禮ですが妾は今紳士と御話をしてゐる所です、」

彼女は嚴かに注意した。

「ヤ、御免下さい、」

流石は米國である、婦人の一言侵すべからず、這々の態で此伊太利人は逃

で紐育人の野性を最もよく知り得るのである、紐育の俗悪趣味の代表はコネーア일랜드である。

世界巡遊の赤毛布旅行家でも通り一遍の見物話は出来るからコネーの案内は或る事情通の私の友人に譲るとする、彼は一日本人學生であつて清い童貞の持主である、或夏、彼は暑中休暇の間、一仕事を試むべくこの俗悪極まるコネーに生活したのである、その時に得た面白い話がある。

「私が或る夜、二時頃に、流石のコネーも人通り少なくなつたので晝の疲れを休ませんと道路の中央に立つて居りました、すると其眞夜中に何處から来たか十八九の美しい小娘が私の前に現はれました、而して私に可愛い會釋をしました、そのバラの様な頬に微笑を浮べて私に世間話を初めるの

る、支那人は手品てじなに料理店、日本人は玉場たまはに煎餅屋せんべいや、其他住來を象ざうに乗のつ  
 て通る、海水浴かゐすゐの半裸體はんらで歩む。アイスクリームを食くつて歩く娘むすめもあれば  
 玉蜀黍たうもろこしをしやぶりつゝ、行く女もある、ビールを飲のむ、サンドイッチを食ふ  
 如何はしい活動寫眞くわつどうしやしんもあれば怪しい夜の女も居る、天下てんかの奇くしい事、不思  
 議な事は全部集ぜんぶあつまつて餘す所なしといふ有様、平常へいぜいは慎つ深い米國人も夏場  
 では紐育人ほんしやうの本性を極端に表してゐる、一生懸命いっしやうけんめいに金を消費せうひするのが遊び  
 に来くる群集ぐんしふで命がけで是を儲もちうけとらんとするのが夏場なつばの商人や興行人であ  
 る。上品な階級かいきふの人は勿論コネーアイランドには行ゆくまい、然しあれ丈だけ  
 何十萬人といふ大群集だいぐんしふがあれば丈はけ馬鹿騷かさわぎする所は紐育以外では出で來きるま  
 い、やはりコネー、アイランドは紐育の名物めいぶつのなかの一つである、此名物

さまざまい人出ひとでである、赤や、青の厚あつい色彩の建物たてものが一面に建ち、強い音楽おんがく  
 がブー／＼ジャン／＼耳みみを聳もたするばかり、流石さすがの紐育人ニューヨーカーすら既に相當興奮こうふん  
 して居るに兩側りょうしの商人しやうじんが如何にして彼等かれらの注意ちゆういを引き興味きこうみを起させんかと  
 競争きやうまうするのであるから氣の小さい山出やまだしの日本人などは、氣きが狂くるふ様であ  
 る、淺草と、千日前と、京極きやうごくと、湊川みなとがはとを重ね合せて何百と續つづけて是を捏こ  
 ね混ませ、英語を振ふりかけて、アメリカで揚げたといふ風である、木馬もくばで走  
 る、車で滑すべる、遊び用の自働車じどうしゃ、常談乗じやうだんりのボート、飛行機もあれば、暗黒あんこく  
 を通かふ船もある、外國の火車くわじの見世物みせもの、土人とじんの人殺ころの興業物こうげふもの、米國人のみ  
 ならず、スペイン人の舞踊ダンス、土耳其人とるこじんの音樂エスキモー土人の生活をその  
 まゝ、見せる所もあれば、アメリカ黒奴くろんはの頭にベースボールを投なげる所もあ

友を呼<sup>よ</sup>べば、花園<sup>はなぞの</sup>のこちらからこれに答へる、芝生<sup>うた</sup>で唄<sup>うた</sup>をうたふものもあれば、噴水<sup>ふんすゐ</sup>の側<sup>わら</sup>で笑<sup>わら</sup>ひさゞめく連中<sup>ごらくきやう</sup>もある、こゝ實<sup>じつ</sup>に若い男女<sup>ごらくきやう</sup>の極樂境<sup>ごらくきやう</sup>かと思はれる、これが彼等<sup>かれら</sup>の娛樂境<sup>ごらくきやう</sup>かと思はれる、これが彼等<sup>かれら</sup>の娛樂境<sup>ごらくきやう</sup>であり慰安<sup>ゐあん</sup>であれば又、彼等<sup>かれら</sup>御互<sup>おたがひ</sup>が好む<sup>このむ</sup>人を撰<sup>えら</sup>ぶ時<sup>とき</sup>でもある、既<sup>すで</sup>に撰<sup>えら</sup>んだ向<sup>むかひ</sup>には天國<sup>てんごく</sup>であり、進<sup>すす</sup>んで結婚<sup>けっこん</sup>した若夫婦<sup>わかふうふ</sup>には蓬來境<sup>ほうらいきやう</sup>でもあらうか。イヤハヤ空氣<sup>くわい</sup>の濃厚<sup>のうかう</sup>なる事、氣流<sup>きりゅう</sup>の上<sup>うへ</sup>ツ調子<sup>てうし</sup>な事、米國<sup>べいこく</sup>の今日<sup>けふ</sup>を最も<sup>よ</sup>良く現<sup>あらわ</sup>はしてゐるのである。

更に紐育<sup>きゆういく</sup>の郊外<sup>かうがい</sup>夏場<sup>なつば</sup>であるコネー、アイランドに行けば一層<sup>いつそう</sup>明<sup>あき</sup>らかに紐育式<sup>きゆういくしき</sup>を知<sup>し</sup>り得<sup>う</sup>るのである、地下鐵道<sup>ちかてつどう</sup>又は高架線<sup>かうかせん</sup>で四十分<sup>よんじふぶん</sup>にして達<sup>たつ</sup>し得<sup>う</sup>らるゝ場所<sup>ばうしよ</sup>として、日曜<sup>にっえいび</sup>日の如<sup>ごと</sup>きは實<sup>じつ</sup>に世界<sup>せかい</sup>有數<sup>いうすう</sup>の一都會<sup>ひとくわい</sup>が總移轉<sup>そういでん</sup>をする程<sup>ほど</sup>のす

## 十、浮薄な米國人

或る春、プロスペクト公園こうみんへ遊びあそびに行つた事がある。田舎むなかの春祭かと思はれる様な人出ひとでであつた、重に男女の若者わかものばかりである。彼等は平常は會社や商店の雇人やとひにんである、女はタイピストや、速記手ステノグラフワーや、賣店員セールスガール、又は、女工である、男は會計係くわいけいがいや、補助店員や、番頭や、職工しよくこうなどである、今日の休日を籠かこから出た鳥とりの如くはしやぎ切つて飛び廻まはるのである、男と女と一對いっついになつたのが多いが、中には男ばかりの騒々さわぐしい幾人かの團體だんたいもあれば、女ばかりの姦かしましい連中も居る、小山おのに登り、アスファルト道みちを走り、池いけに小舟こぶねを浮うかべるのもあれば、綠蔭りよくいんに辨當べんたうを開くのもある、岡をかの向ふから

使を弱よわらせたのは既に一般はんに御承知おんじゆのことと思ふ。

米國の大學中古ふるくて奥床敷おくゆかしいのはハーヴード大學である、進歩的なのはペンシルヴァニア大學で、訪問ほうもんしても温おもく思ふのはバルチモア市のジョン・スホプキン大學である、校舎かうしゃの壯麗さうれいなのはシカゴ大學で景色うつくの美しいのはウースター市のクラーク大學である、ニューヨーク大學と別べつのもので紐育市立大學といふのも仲々盛大せいたいである、シカゴ市のラッセル醫科大學いこくでは婦人科たいしゆじゆんの大手術を見學した事もあつた、ユニオン神學校しんがくかうは基督教大學の權威である、私は一流大學りうたいがくと稱せられたる二十ばかりの東西各州に散在さんざいする大學を親しく參觀さんくわんする機會きくわいを得たのは非常な幸福かうふくであつたと思ふ。

「感情かんじやうといふものは鏡かみの様なもので好感を以てこれに對たいせば好感で報ひらるゝものである、支那人が日本人に對たいしてどんな感情かんじやうを持つて居るかといふ問題には必ず一般はんの日本人が支那人に對してどう御考おかんがへになつて居るか」と云ふ事までも注意ちゆういしようではありませんか。」

など、皮肉ひにくつて居つた、顧君はこの時に大總統だいせうとうとなつた袁世凱氏に秘書官たれとの電照でんせうをうけて支那に歸り新知識しんちしきを振り廻して居をつたが間もなく桑港駐在の支那總領事しなそうりやうじとなり更に飛とび上つて三十幾歳の若輩じやくはいを以て華府の駐米公使ちうまいこうしとなり、それが歐洲大戰後の巴里講和會議パリこうわくわいぎでは支那委員としてウキルソン氏とは特別の了解れうかいのある關係と日本委員とは違がつて年は若わかし英語は上手じやうずと來てゐるから盛んに駄々子だだっこをやつて、吾西園寺公、牧野子の兩老

女子大學生等にも非常に評判が良かつた。

見る人の心々に任せおきて

高根に澄る秋の夜の月

此和歌は同博士が私に書いて下さつたのであるが當時の聽講生にこの歌の英譯したのを見せると日本の温厚な學者の人格がしのばれると喜こんで居つた。

それから少し後の事であるがコロンビアに顧維鈞君といふ支那留學生が居つた、五十何人かの支那人の内で見立つた俊才であつた、或席上で日本人から日支兩國民の今後の親交を希望し且つ現在の國交について質問した處

へたい事がある、それは昔の政黨せいとうと今日の政黨とは政黨を同じくして居るともその政綱せいこうは何回か變更へんこうせられて居るのである、吾が共和黨は變化へんくわしつつあるけれども常にその瞬間しゅんかん（時代の事を米國では氣短きみじかくモーメントと云ふ）に適合てきごふした最良の政綱せいこうを示しつつある、諸君は誤あやまつて昨年か、一昨年に他の政黨に入黨にふたうした事があるとも今日吾が共和黨に轉黨てんたうせらるゝのは決して變節へんせつではない、一生いっしやう涯がい同一の政黨に加入すべき義務ぎむがある様に云つたのは昔ひかしの考へである、今日は時々變かはる處の政黨を見てそれによつて進退しんたいを決すべきである。吾が共和黨の政綱せいこうは……。」

野次やじが拍手したり反對したり仲々盛なかくさんである、新渡戸博士は暫しばらくコロンビア大學に止とどまり、日本の社會の事情じじやうについて常識じやうしきに富とんだ講演があつた

米國の大學では學生の政治運動が許されてある、毎年何かの選舉のある政治期節に各政黨からの學生爭奪が盛んに行はれる、嘗ては米國副統領の候補者にまで挙げられた政治好きのバトラー博士を總長に持ち、且つ數千名の選舉權を有する青年を學生として持つコロンビア大學の如きは盛んなる新黨員爭奪の戰場となるのである。

「吾が最愛なるコロンピア大學同窓生諸君、この中で選舉權を有する諸君は必ずその權利を行使すべき義務がある、又選舉權の有無にかゝわらず米國市民たる諸君は政黨に加入すべき義務がある、諸君の父祖が吾が古き歴史を有する共和黨員であつたならば諸君は續ひて共和黨に加入なさい、若し諸君のうち共和黨以外の政黨員の家に生れた人あらば今日吾々と共に考

認められないによるものか。

私は紐育大學を同じ出身のコロンビア大學よりは一つ深く記憶する事がある。それは嘗て帝王の如く特別列車で旅行した事のある私も、或る年の冬、少々學資の缺乏を來し、學課の都合で勞働する事もなり兼ね、僅少の殘金を残れる日數に割り當てると夕飯はパンと水のみとなり、下宿なる天井裏の一室に歸る途中、大學畔なるワシントン公園の噴水に一杯の水を呑むのを例として居つた。零度以下に下つたと信せられた或る極寒の日は噴水も凍り、冷い鎖に鈍れた鐵碗で氷を破つて一掬の氷水を呑んだのである。空は雪模様の夕であつた、私は是をニューヨーク大學の甘露として永く記憶して居るのである。

「私はスコットランドの血を受けて居る田舎者であるのを名譽とします」と静かに語り出す偉人の俤を見た、私はニューヨーク大學在學中も卒業後も、新總長ヴラウン老博士夫妻の知遇を得、遂に萬國大學生協會に博士と壇を同じくして二人が一場の演説をしたこともあつた。

ニューヨーク大學は學生一萬餘を有する米國一流大學の一である。米國偉人の名を石に刻むヘーム廊と、ハレム丘上の壯大なる圖書館のドームとは世界漫遊の人が必ず見る可き價のある所として推稱したい。ニューヨーク大學は特に財政と、實業教育に於て米國で重きをなして居る、未だ日本に廣くその大學の名の知られてないのは、比較的出身者の新しいのと、而してニューヨーク市そのものが大に過ぎて、その名を冠した大學が反つて

にまで薦つたの下さかつて居るのを見ながら、緑深みどりふかい校庭がうていを散歩さんぽし、これが卒業式には知事ちじや、大統領を呼んで名譽學位めいよがくゐを授ける權威けんゐある學府がくふかと懐なつかしく思おもつた。

ニューヨーク大學は、米國教育總長べいこくけういくそうちやうヴラウン博士を大學總長として迎むかへ、ハドソン、ハレム兩河の勝景しょうけいの地、大學ヶ崗と稱せらるる本校に盛大せいたいなる就任式しゅうにんしきを舉げた當時、同大學の學生がくせいであつた私は、この壯嚴さうごんなる式に列するを得、米國著名べいこくちやうめいの士が皆出身大學の色と、型かたとを誇ほこる式服がうんと、法帽ほふぼうとを着きて親したしく祝賀しゆがの演說えんぜつをするのを聞いたのである。特に大富豪だいにふがうカーネギー翁おんは、此日は製鐵所の光景せいてつしよとは全く別な思おもひで、グラスゴー大學の黒の學位服がくふくに赤あかの名譽頭巾めいよづきんを冠かぶり、

格もしのばれて、思出深い日を、此偉人の町に暮したのである。

## 九、米國の大學

米國の大學の有名なものは總て私立である。エール、ハーヴァード、コロンビア總て然りである。之れは米國が昔、殖民地時代、未だ政府の微力な時に各方面の民間諸機關反つて勢力を占め、最高學府たる大學は地方地方に興り、其後益々自由に發達して今日に至つた結果で、新しく設立せられた、米國中部諸州の州立大學を除ひては、一流大學は總て私立私學である、又、こゝに學問の權威も、研究の自由も、大學趣味もあるのである。一日、エール大學を訪ふて、古い洋館に蔦の葉が一面に壁を被ひ、入口

大ビルデングの鋸立するあり、水上亦汽船の往復頗る繁しい間を私共の快走船は水を破つて進行するのである、やがて船は、マンハツタン、ウヰリヤムス、及びクインスポーローの三大鐵橋の下を通つて愈々大陸を左にロング、アイランドを右に新英州内海を航行するのである、カナチカツト州の山々も手にとる如く、人家さへ幽に見える位の所を進行し島を迎へ、岬を送り、數時間にして偉大なる大統領ルーズベルト氏の故郷オイスター灣に着船した、その夜は星が鏡の様な水面に寫る港内に假泊し、翌朝、船長の仕立てくれた、モーターボートに乗つて、上陸して見ると、米國には稀な閑靜な町で、並樹、蔭深く時しも日曜の事とて寺院の鐘のみ聞ゆる街道を家族相連れ立つて村の寺にと集るあたり、ルーズベルト氏の幼時や、人

アリス夫人と共に、此アリス號で紐育の近海を航行したのである、紐育にはヤット、クラブがあつて快走船の所有者は凡て是が會員となり、海軍式の一定の制服を着て、乗船するのである、アリス號は紐育港口を出て、米國獨立の際、佛國から祝賀として贈られた高さ五百呎の一大女神像を訪問したり、又はハドソン河に投錨したる軍艦の側に同じく錨を入れて海上の生活を學びなどするのである。

一日東海を溯つた、水中は地下鐵道、水面は戰艦、頭の上には長さ一里のブル、ツクリン大鐵橋架せられ、これには四條の高架鐵道と電車線に織るが如くに通る自働車や、馬車の路、これに人道を加へた延々たる長蛇近くの海軍鎮守府上は飛行機の飛ぶあり、兩岸は五十八層の摩天樓を初め

を濟して陶然たる時であつた、やがてコーヒーの最後の一年を呑み終つた頃、其の由を私は給仕長を通じて列車長に傳え、而して機關車の運轉手に信號をした。

「承知しました、速力以前の通り。」

「コーヒー終り、全速力、オーライ。」

北米大陸を我列車は疾風の如く走るのである、一晝夜、此風の列車生活をして私はシカゴ市に到着したのである。

自働車は米國では小娘の玩具となりつつある、アンダー、ウッド氏の令嬢は自働車を所有し、運轉も上手である、又同家には快走汽船も有つて、アリス號と名づけて、令夫人の名そのまゝを船名としてあるので、私は度々

んで、實は一寸コーヒー碗に入れ過ぎたのである、私は手にとつて呑まんとする、汽車の動搖で口許でタプ／＼と溢れる、テーブルに置けばチャブ／＼と漲れる、こゝに急製の帝王待遇も意の如くならぬは鴨川の水と列車内のコーヒーとであると、暫し困らんとして居る時に側を列車長が通りかけて此有様を見て、

「オーマイツ。」

一言を残して車掌室に飛び込んだ、而して機關車に非常信號をして「コーヒーの都合により、」早速速力を少し緩めよと下命したのである。

「イヤどうも。」

列車長が大變に恐縮した態で挨拶に來た時には、私はコーヒーの半分以上

である、こゝに東洋の一青年はやがてさしかゝつたペンシルヴァニア州の美しい村に、米國の百姓が畑に働く景色等を眺めつゝ、特別列車を進めるのである、親しく米國民労働の有様を御覽になると云ふ所である。

間もなく夕食の時間になると黒奴の上手な料理人によつて調理せられた甘い洋食が給仕長の手によつて食堂に運ばれた。

「今回の旅行には鶏肉の上等も御座いますが、特に新らしい果物を澤山乗せましたからどうか。」

給仕長の行き届く世話で私は御伽噺の王様の様な食事をして居る、やがて夕食も將に終らんとし、給仕長は最後のコーヒーを碗に注いで呉れた、彼の厚志が餘つたのか馥郁たる香の高いブラジル、コーヒーを波々とつぎ込

れに動搖どうたうを防よせぐ爲めに二臺の一等車を結び、それには何人だれも乗のせないで、次の大きなボギー式の特等車とくべつしゃが私の所謂「御召車」である、御召車の中は、二個の寢室しんしつと、食堂と、料理室れうりしつと、手荷物室てんぱうだいとに區畫くくわくされてある、列車の最後に空からの一等車を聯つらね、これが私の展望臺てんぱうだいとなつてゐる。

列車はニュージャージー平野へいやを最優速力さいいうそくりよくを以て進行して居るのである、急行列車の事として小驛せうえきは通過つうくわし、大驛おほえきと雖も、私には要件えうけんがないから通過するので驛長えきちやうや信號手は列車の通とほる度に、特別の注意ちゆういを拂はらふのである、私は其列車の中央御召車ちゆうおうに燃もる様な赤絨氈あかじやうたんを敷しき、中央に丸テーブルを控くわへマホガニーの椅子いすを泰然たいぜんと占めて居るのである、歐米各國でも皇族方くわうぞくがたは、普通列車ふつうれつしゃにお乗りになり、特別仕立列車は先づ帝王ていおうだけと云つていゝ位

鐵道は紐育からシカゴ迄一千哩の複線と一千哩の支線とを有する米國有數の大鐵道である。

紐育から汽船でハドソン河を渡り對岸のジョージ市の停車場にゆくと私の乗るべき特別列車が待つて居つた、勿論切符は買はなくてもいゝし、發着時間表に依る必要もなかつた、私が乗車すると、列車は勇ましく進行を初めた、斷つて置くが私の乗つたのは、私の列車であつて、私の箱一つではない、金さへ出せば米國でも一車室を借り切つて、此を普通列車に聯結して納まり返つてゆく事も出来るが、それではなくて一個人の列車を仕立させて時間表にない特別の時間に運轉せしめるのであるから面白いのである、私の列車には特別に大きな、而して新しい機關車が用ひられ、そ

め是非とも是が改良を斷行したい。諸君等のうちに、離婚になつた男女の友達を多く知つて居らるゝであらう、是等は凡て徳川時代より來た社會的の病氣の犠牲者である。これが全治の道は先づ青年少女の、自覺によつて任せらるゝまでの信頼を得、次ひで學校や教會の監督のもとに適當の交際を許して相識るの機と明とを與ふ可きである。私は世の親達や學校の先生に特別に此制度と習慣とについて御一考を願ひたいのである。

## 八、特別仕立の急車行

イリー鐵道會社々長アンダー、ウツド氏を知るの好機を得たる私は同氏の好意によりて、特別仕立の急行列車に乗つて旅行した事がある。イリー

ある。堂々たる紳士紳商や、上流の家庭でも、妻の入籍は非常に手續を後らして居る、中流以下に於ては結婚後先づ一兩年は入籍しない人の方が多い由、すれば入籍せずして離婚になるのは入籍後離婚となるよりは、數に於てはるかに多いわけであるが、假りに同數あるとしても一・五の二倍とし五である。すると日本で「高砂や」と目出度く祝ふ結婚の五割迄は「此浦船に帆を」巻ひて、やがて歸る運命にある、大神宮の門を潜る新郎新婦は半分以上、既に離る可き運命にある、實に日本の結婚式は結婚試験の様なものである。

實に懼るべきは現日本の結婚制度である。是が如何に日本に禍をして居るかを更に考ふるならば吾が愛する子女の爲め進んでは、愛する國家の爲

へ、今日の新しい教養のある青年男女を充分、了解したつもりで居るのは大なる危険である、彼等は到底表面から見え切る程、單純な人々で最早やないのである。若し夫れ我子女を眞に愛するならば一生の大問題たる結婚のみは多少は本人自身の自由に任せたい、同時に日本の青年男女にも一層の自覺を切望する。自由は放埒でない、男女間の交際は、其人の人格である、戀愛は神聖であらねばならん。

統計表に依るに日本では結婚十に對し離婚二・五の割合にあつて、此點眞に名譽ある世界主班に居るのである。而かも、此二・五は戸籍上、結婚を届けての離婚數である。日本では結婚後正式に入籍する率は極めて低く子供が出来ない限りは、入籍手續もしないのが十中四、五まであるそうで

デー學風の感化によつて育てられ、思想と教養とを同じくし、従つて特別の了解と、信頼と、戀愛を感じ合つた幸福な好伴侶である。

顧みて我國を見るに、未だ結婚は親と親との約束に重く、家と家との關係

や、無責任なる媒人や、了解に乏しい前世紀の親族や、甚だしきに至つ

ては營業取引や、財政關係によつて決定せられ當の本人が相知るの間でな

いのは勿論、尙甚だしきは本人等が進んで好まざる結婚をすら成立せしめ

て居るのである、自由の戀愛を不義と呼び、是を御家の嚴しい御法度とし

た舊時代の思想が残つて居るのである。互に識らざれば嫌忌の間柄とは云

へないまでも、全く沒交渉の男女といふ人間二人を不自然に結びつけて一

生の伴侶とするのは、餘りに大膽な制度である。親や媒人が撰んだとは云

SALVATION

救はれて安心立命する、

ソープ。スーブ。サンシャイン。サルベージョンの四語、是亦吾々、産湯の時から引導を渡されるまでの幸福なる恵みの人生ではあるまいか、ハイマンの一傳話仲々趣あるものである。

此病院に美しい看護婦の助手が居つた、聞けばノースフィールド女學院の女學生が學資を得る爲めに一學期休講して病院に勤めて居るのであつた。兩兄妹學院の交際は、かくの如き所にまで及び、極めて美しく而して濃厚なものである、従つて在學中の交際がお互に相識るの期となり、相撰むの機となつて卒業後結婚するものも少くない。私の知つて居る丈けでも數組の目出度い夫婦がある、彼等は青春時代に健全なる新英州の聖地にムー

けると寄宿きしゆくに居るよりは入院せよとの事で一週間程世話しゅうかんほどせわになつた事がある  
 入院の當日、先づ私は風呂ふろに入れられ、石鹼せきけんで清められ、而して食物とし  
 ては只、肉にくのスープを給せられた、一兩日して快方くわいはうに向つた時には、病院  
 の最も日當り良き室よで日光浴を勵められ、やがて退院たいいんする三日前から病  
 院監督兼學院神學教授けうじゆハリソン老博士から、宗教サルベインヨンの講話を聞かされた、是  
 が學生患者の入院にふろしから退院するまでの普通の順序ふつうである、ハーマンでは是  
 を「四つのS」と云ふ。

SOAP

石鹼せきけんで洗あらはれ、

SOUP

肉汁スープで養やしはれ、

SUNSHINE

太陽おんたうの恩澤おんたくを受け、

達は雪ゆきの女神めがみの様ように又もや櫛そりで消きえてしもうのである、かくの如く或る機き會かいを限かぎつて男女だんなちよ學生がくせいは交際かうさいを許ゆるされ、或る日を定めて互に學院がくいんの寄宿きしゆくしや舎しゃに訪問ほうもんし合ふ事も出来るのである、勿論もちろん、米國せいねんの青年せいねん子女じせよはどこでもそうであるが、私共わたくしどもはよく異性ひせいを識しるの好機こうきを得たのである。男女七才だんなちよしちさいにして席せきを同じうしない國には、反かへつて男女間だんなちよかんの不品行ふひんかうがあるが、常に自由じゆうに往復わうふくして居つては、決して間違まちがひはない、その間に禮節れいせつもあれば、自制じせいもあり温ぬるい同情どうじやうもあれば、美しい了解れうかいもある。互に高等教育こうとうがくを享うけた、修養しゆやうのある若紳士わかしんし、令嬢れいぢやうたらんとして居る際である、故に自覺じかくがある。同時に若いものでなければ味あじへない特別とくべつの清きやうい享樂きやうらくもあるのである。

私は留學りうがくちゆう中の或る冬ふゆの日に風邪かぜを引ひた、そこで學院がくいんの病院びんいんで診察しんさつを受

學院が建てられ、霧をへだて、ムーデー教祖の男子留學舎は相對して居るのである。

「クリスマス夜會に際し、ハーマン學院内、セニオア學會員一同はノースフキールド女學院ジュニオール學會々員一同を招待するの光榮を有す、來る土曜日午後六時本校、カテージ館まで御來車願ひ上げ候」

私共の招待狀は幹事から正式に交附せられるのである。勿論兩會員の往來頻繁な向は既に非公式に招待も承諾もしてあるのである。

夜會の當夜數十人の女學生は櫓に乗つて長い雪道を走つてくる、時間前には、男女學生打ち混つて崗上に雪滑りの遊戯などをする、それから食事を共にし、音樂を初め、高尚なゲーム等が盛んに遊ばれ、夜更けて女學生

く、六百の健兒けんじが生存し、フットボールをやるに足る丈だけの原動力げんどうりきになるのであるから眞物ほんものの食事を年中供して居らねばならぬ。

夏の夕食なつには花園くわあんから、美しいダリヤ等が食卓はくじに運はこばれる、驚いたのは學生のオーゲストラの演奏えんそうで、ピアノに合せてヴァイオリンの音ねも涼すずしく食事をする所等全く一流りゅうのホテルと云つた形である。

## 七、學生ローマンス

ハーマン山ざんの蔭かげ、美しい所、遠くには東山ひがしやま々脈さんみやくの連り、その下を延々えんげんたるマサチューセツツ川流る、夏なつは水泳すゐえいによく、冬ふゆは氷滑こぼりすべりに適する、此川をへだてて川向かはむかふの山頂さんていにハーマン學院の姉妹しまいかう校たるノースフキールド女

食卓での食くひ残のこしたパンや、肉の片きれは桶おけに入れて、馬車つに積み、養豚場へ運はこぶと、豚みが皆食なべてくれる、此豚このぶたは大きくなると豚肉となつて我々の食卓じゆんじよに上るといふ順序である。

九時には食堂まは全まく整理せいりせられる、某婦人會の會員がくみんが學院げんがくを見學けんがくして、調理所しよくだうと食堂せいよんの整頓せいとんして居るには驚おどろひたさうである、やがて十一時になると、別の學生がくせいが晝食ゆういの用意よういに出てゐる。廣大なる農園のうえんには學生の手に栽培せられる薯いもや、野菜物やさいものがある、新英州名物の玉蜀黍たうもろこしの二尺程あるのも採とれる、これ等が凡がくせいて學生によつて調理てうりせられて食卓に出る、林檎りんごや、ブラムなどが果物園くわぶつえんから出てくる、仲々の御馳走ごちそうで、日本の女學校の御料理おれうりの替かひ古の時ときよりは、ま△△△△だ甘い、勿論もちろんハーマン學院のは遊あそび事や、替けいこ古事ではな

と私達の學友である。

「君此牛は貴女牛といつてね、女には乳を搾らせないので、男でも先づ僕位の男前でないと仲々乳を出さないといいふ贅澤な奴だ。」

彼が搾る牛乳は鍼力罐に入れて馬車で食堂へ運ばれる、そこで學生の料理人が朝食を調へると、此も學生が白の給仕服を着て大食堂に八名宛の食卓を數十用意し、牛乳をコップに注いで廻る、七時の朝食に學生は出揃ひ食後大部分はそのまゝ、思ひ思ひの教館へ行くと、他の學生が後始末をする、三人がフォークや、スプーンを熱湯で洗ふと、十人程が食皿を大きな鐵網に入れ、石鹼を解いた熱湯を湛えた木槽に釣瓶仕掛でザブ／＼と浸したり出したりにして洗ふ、この皿を戸棚に運ぶ仕事をするのも學生である、

水道が破損したと云へば、こゝから學生の水道員が道具を入れた革囊を肩にして修理に出て行く。

學院の學生は苦學生が多い、學資金も二時間の勞働をする爲め極めて安價で先づ他の高等學校の四分の一位でやつて行ける。學生は大抵一度は社會で働ひた事のある青年で、従つて、全校六百人の學生を集めると、ほとんど總ての職業の經驗者が得られるのである、然し發電技手も石炭夫も事務局の書記も寄宿舎の掃除人も勤務時間の二時間は、同一の價値で、仕事に上下無く、年に老若なく、一切米國式の平等均一である。共產主義者が見たら理想郷と涙を流して喜ぶ所である。

朝四時に起きて學院の牛舎に至ると青年が牛乳を搾つて居る、顔を見る

深林には熊が居るかと思ふ小暗い森もあつた、そこで石打ちを用ひて樹間の栗鼠を打つのだ、獲れた栗鼠は動物教室で解剖する。

「ハーマン學院では毎日、學生は凡て二時間づつ、勞働して學院の用事を辨ずる事になつてゐる、各々の技量又は經驗に應じて仕事を定め學院では凡て自給自辨で生活し、雇ひ人を出来る丈け少なくして居る、是が學祖ムーデー翁の理想で數十年來實行せられて居るのである。

試みに學院の動力所を訪問せんか、一人の専門技師、これが責任者たる下に數名の學生助手と學生の石炭夫とがあつて、凡て二時間の勞働時間内に獨立の完全なる原動力を起し、冬は全校に温室用のステームを送り、夜は電氣を通じて寄宿舎の學友に電燈を供して讀書せしむる、教授の私宅の

つた、ハーマン學院留學中は私の在米十年を通じて最も幸福を惠まれた時の一つである。

「君、フットボールを見に行こう、今日は優勝者たる吾々の寄宿舎とクロ  
ーズレー館との競技だ、一昨年も昨年も吾々の選手の勝だから今日勝つと  
三連勝とあつて優勝旗が吾々の永久所有になるのだ、だから他の寄宿舎は  
凡てクローズレー側に應援するから吾々は樂隊附きで應援隊を出すのだ、  
さあ來給へ。」

誘はれて私は中央の大運動場で勇ましい米國國技を見たのである。

私がテニスを遊んでゐると例の不良青年組の一人が無理に誘ひ出して、  
學院の森林へ連れて行つた、何しろ一周六哩からある校庭の事であるから

私は汽車を下りたのである、頃は七月の中旬で緑の色、濃いハーマン山に停車場から馬車を走らせるのである。約二十丁にして来たのがハーマン山頂で點々と建てられた立派な白や赤の洋館が即ち私の留學すべく出て来たハーマン學院の科學館や、寄宿舎等である、坦々たる山頂の平野に四五名の學生らしい青年が質朴な勞働服に身を固め、六尺以上の大槍で今しも刈つた牧草を馬車に積み上げて居る。英國のカーライルと共に稱せらるゝ十九世紀の米國の大農聖ムーデー翁がハーマン學院を創立した當時の氣分をのまゝの光景が察せられて懐かしく感ぜられた。

私は其日から、英國大公爵オーヴァトン卿の寄附によつて築てられた、オーヴ・アトン館に寄宿して、私の自由に撰擇した學課を勉學する事とな

た五分、十分の頃、港口の暗い倉庫の向ふ、外國船の蔭に當つて、一發の銃聲を聞ひた。續いて二發ついで三發、そこで友も二三の同志と遂に〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、〇〇結果として〇〇、〇〇〇〇〇〇〇〇するに至つたのである。

私はこれ以上に話すの自由を持たない、ただ數日の後、彼日本帝國豫備一等水兵は無事に上陸して私に會つて厚く禮を述べたのである。

## 六、獨立獨行の學風

米國古文明の中心と稱せられたボストン市の北、百餘哩、新英州氣風の泉源地と認められたマサチューセツツ州のマウント、ハーマンの小驛に





日露戦争には一等水兵として奮戦した經驗のある彼壯漢は眉をいからして私に決心を話すのである。

「昨晚は機會を失しました、今晚若し實行出來なかつたら明晩は必ず決行します、こう紐育の港に入つて、都會の燈火を見て、どうして再び横濱へ此船で歸れませう、此から三町を逃げると、もはや、繁華の紐育市街じやありませんか、大丈夫必ず成功します、死んだつて満足です。」

「僕は船から未だ給料を一厘も受け取つて居りません、又、多少の荷物も船に残しますから、船長は五百弗丸損にはなりません、今夜は未だ月が圓いから明るくて危険です、然し荷物を卸しますから、船は一日一日と浮き上つて、甲板からドッグへ飛び下り難くなるのです、今でも七八尺ありま

X  
X  
X  
X  
X  
X

「此室このしつの入口にピストルを以て立つてゐる人相にんさうの悪い毛唐けたうがゐるでせう、あれは僕ぼくの監視かんしの爲めに居るのです」私は今、ノールウエーの國旗こくきを揚げた一大貨物船だいくわぶつせんの下級船員室で一日本人から恐る可おそき話を聞きいて居る。

「僕はこうして外國船ぐわいこくせんに乗込のりこんで來たのですが、目的もくてきは紐育に上陸したいのです、然し旅行券りよかうけんがないから、正式に上陸は許可きよかされない、他の白人の船員せんめんは上陸しても日本人たる私は、自由じゆうに陸には上あげないのです、而してどうしてか、僕ぼくが上陸して逃亡たうぼうする目的もを持つて居る事を船長せんちやうが知しつて居るらしいのです、僕に上陸じやうりくされると船長は五百弗の罰金ばつぎんを米國政府とに取とられるのです、然し僕しは逃亡けつかうを決行けつします。」

「これが、Hじやないでせうか、今も評うわさをしてゐるのですが、皆みんなの話によると、三十位の男で支那人しなじんに似て居る所といひ、現に茶の洋服やうふくに赤靴といふのが、全くHらしいのです、Hの事ですから、酒に酔よつて落おちこんだかも知れませんよ、それとも金に詰つまつて自殺じこつしたのかも知れません。

「一度市役所やくしよへ照會しようと、思おぼふのですが、Hの爲だといふと何人だれも進んで行かないのです。勿論こんな話はなしをして居る所へヒヨツクラ歸かへつて來て一寸ちよつと、君、五十仙貸せんかしてくれと來るかも知れませんがね、何處か又放浪ほうらうして居るのかも知れませんが……。」

Hは其後遂そのごつひに歸つて來なかつたそうだ。かくてHは永遠えいゑんに忘わすれられてしもふのである。

或日、日本人會で私に尋ねた人がある。

「ネー、あの時々、町で日本人に會ふと、金を貸せと云つた男があるでせう、たしか東京府下の男でしたね、あれが十日程前から姿を見せないのです、別に先生の事だから、何人も心配はしませんが、一寸此新聞を見て下さい。」

其人は私に一週間程前のトリビューン紙を示した。

「支那人の奇禍。本朝午前三時頃グラント、セントラル停車場にて、地下鐵道の線路に倒れ落ちたる一支那人あり、折から進みきたる第二百三十號列車に敷れて即死したり、支那人會に照會したるも姓名不詳につき假埋葬したり、年三十位、茶の背廣にて、赤靴を穿ちたり。」

昔から全く音信不通さ、イヤ音信しようにも、僕の居所は國では知らないし、僕は村の名を忘れたと來たのだから、譯はないや。たしか十年程前に國から來た男の話では親父も死んだとか、なくなつたのか云ふ評だつたがアハ、、、、。いづれ兩親は二人とも居らないらしい。」

私は此様な極端な放浪生活をして居る日本人には度々米國で會つた。彼等も同胞であると思ふと共に、故國を出る時には、いづれ錦を飾らずば郷關に見るすと決心して太平洋を渡つたのであらうと思ふと氣の毒でならなかつた。

X  
X  
X  
X  
X  
X

「且といふ日本人を御承知ですか？」

皿洗さらあらひをしたのを振出ふりだしに、下男しもやをやる、窓拭まどふきをやる、掃除人きんぎょにんから料理人りやうにんになり、新聞しんぶんを賣うる、靴くつを磨みがく、學校がっこうへ入れてくれる人があつたが暫しばらくで退校たいがうして、夜學やがくへ通かよはして呉くれたが、面倒めんどうなので飛とび出だし、それから果物園くだものうに働はたらく、鐵道てつどうの人夫ひとづをする、小金こがねを貯たくはへて店みせを出だしたのが僕ぼくの全盛ぜんせい時代じだい。

「不慣ふなれの結果けつが、商賣しょうばいに失敗しつぱいし、酒さけと女おんなと博奕はくちと三つ揃そろふて勉強べんきやうした所ところは全く一人前ひとりまへのアメ、ゴロさ。それから桑港さうかうを出だて、あちらの支那町しなまち、こちらの日本にっぽん巢窟さうくつと流れ流ながれて紐育きよに來きて、此頃このころは三十年昔むかしの、又もとの皿洗さらあらひさ、アハ、、、。

「日本の親おやですか？桑港さうかうに上陸じやうりくして間まもない頃ころ、御袋おふくろが死しんだと聞いたが

彼は日本語をすら忘れんとして居る。

「僕の生れかね、K縣とまでは確かに覚えて居るさ、K縣のI郡とか云ふ所で生れて、大きくなつたのか、してもらつたのか、僕はどちらでも好いがアハ……………」。

「村の名は忘れてしまつた、何とか云つたね、何でも變な名だよ、A村とか何とか云つたよ、何しろ十三の年に田舎を一人で飛び出したのだ、それから横濱の材木屋で小僧をして居る時に國から二度ばかり手紙が來たが、米國の船員が連れて歸つてやると云ふから、大きな汽船に乗つてボーイをやりながら日本を出たのが十五の秋か冬だ。

「それから、桑港に上陸して既に三十年。此間が實に面白いのだ、海軍の

信愛しんあいとがあるのであるから須家の各家庭かくかていは極めて平和で幸福かうふくである。

須翁夫妻は七十余歳の長壽ちやうじゆを完まつたふしてコスモスの花の萎しほれる様に先まづ老夫人此世を辭じし、約束やくそくのあつたかの様に須翁半年の後に静のちかに永眠えいみんしたのである。

「エホバに感謝かんしやせよ、エホバは恵あがなふかく、その憐憫あはれかぎりなし。エホバの救贖あがなをかうぶる者はみな然しか云ふべきなり。東西南北の野のにてあればたゝる路にさまよふ者も困苦こんくのうちにエホバをよばりて救すくはれたり」

(須翁愛詩の一節)

## 五、放浪の我同胞

數十人の須翁一族は決して相ひ争はなかつた。よく日本では交際の出來ない親族といふものがあるが須家は皆が親密であつた、須翁を大きな愛の翼として其下に集り、須老夫人の惠の露に潤ふのである。子女達の夫婦は各々別に家を備えてゐる、決して二夫婦は一家庭にならないのである、是が争ひを無くする原因であると共にこの離れ々の生活が反つて家庭と家庭との間を親しくしたのである、又彼等は決して、金錢上の相談や援助をしない、時に金錢の不足の場合や急に入用の時等もあるであらうが各々分相應の生計を營み、獨立の家計を建て、金融は一切銀行に頼む、若し協同で物品を買ふ場合の如きは正しく清算して御互に證書を交すのである。而して金錢や利害關係に馴れる事をしない、此上に須翁夫妻の信仰と各人の

眼と穢い髪あみの持主である、ポロ／＼の洋服を着て、一生涯湯しやうがいゆに入つた事のない様な顔かほをしてゐる。彼は酒さけの爲めに頭腦づなうは朦朧もうらうとし言葉も明瞭めいれうでない馬鹿もうろくで耄もろくして、おまけに酔拂よつほらつて居るのが常である、居酒屋ゐざいやと公園のロハベンチと須翁すおんの家だけは然し慣おほえてゐる。毎朝出でて來きてバケツに二三杯の石炭はこを運はこぶ簡單かんたんな労働あたを與へられる、そして朝食めいぐを惠めぐまれ銀貨まい一枚まいを與へられるのであるから、いくら紐育たかでも高たかい勞銀らうぎんである。ジョンは其銀貨まいを握にぎつて辻つじの居酒屋ゐざいやの戸かどをギーツと押おすのである。錢かねが欲ほしいと一日いちにちに二回でも三回でも須家すけへ例れいの高たかい労働らうどうを賣うりに來た。ヘラルド新聞ヘラルド新聞が彼かれの大寫だいしやう眞まことを載のせて「紐育ひやう第一だいいちの穢きたない男おとこ」と評ひやうした程、それ程ひやうジョンは穢きたい事に於おて有名いうめいである。須翁すおんは此この乞食こじきをすすら無限むげんに惠めぐんでやつた。

嫁して獨立の家を持ち數人の子があり、老夫人の妹なる人は家にあつて家事の補助者である、伴の嫁は娘の如く、娘の婿は伴の如くに親しい、この澤山の夫婦に、澤山の孫を加へ、親族を混へた一大家庭が秋の收穫の頃、感謝祭を祝ふ爲め、平和の正餐を開ひた時、いづれも血の縁りがある中に只私一人は他人も他人、同胞とさへ云はれない一異邦人の身を以て特に席に列するの光榮を得、再び三たび須翁全家族の温い平和を讚美する念を深くしたのである。卓上に翁が銀のカーブイング、ナイフで割ひて分ち與へた七面鳥の肉は實に金錢以上の寶であると思はれた。

「やー、ジョンが來た、ジョンにも感謝祭を與へよう、」

須翁は毎日の様に出てくる男の老乞食にも惠んでやつた、老乞食は潤んだ

めて生を此代に享けたに對し意味ある奉仕がしたい。それには先づ自らを修め、尙、力あるならば社會人類の爲め、幾分の幸福増進を計りたい。」と是が翁の眞の心である。

須翁の貞順なる老夫人は、よく翁の心を了解し温い同情を以て翁を補佐し、翁の家を修めては翁の實業家としての後顧の憂なからしめ、翁がズロ  
 ーエ教會長老として幹部にある間は、老夫人も同じ教會の禮拜委員長として働かれ、且つ五人の子女を立派に各々一人前になるまでに育てたのである。

子息は事務家として翁の秘書役であり、且つ後繼者であり、一令嬢は小學校教員となつて二十年、可憐なる兒童に義務教育を授け他の三娘は各々

を識り且つ世話になつたのである。須翁は實業家であると共に敬虔なる基督教信者としてその信仰とその人格とを以て衆を導ひた。人生、金を儲けるだけが全部であるならば、何と心細いものではないか、金は相當の生活を營み得れば足るので、物質的には愉快なる普通生活以上を望まない、これ以上に金を與へられては反つて、むしろ精神的方面の不備を招くに至るものである。自分は富まざれど家もあり、子もある、此上は只精神的に修養して人生の眞味を味ひ、神の王國の無限に廣大なるを知り、物質にのみ焦心つて、而も永久に満足し得ない人々を救ひたい、又これから社會に出て種々の誘惑や困難と戦ふ可き青少年子女に宗教的の修養と鍛鍊とを與へたい。自分は實業家であるが、且つ一方教養上の無給の傳導者として、せ

は必ず自宅を出て自分の經營してゐる紐育物品家具火災保險商會へ出勤するのである、出る時には必ず清い接吻を自分の老妻に残して行くのである。數十年一日の如く妻に優しい好侶である。

「今日は土曜日だから少し早く出勤する」

平常よりは三十分ばかり早く出て行くのが毎土曜日の習慣である。商會では土曜日の午後は休む事にしてあるから朝は少し早く出勤する、休みの前後はとかく怠り勝のものであるが須翁は反つてよく勤めるのである。營業振も至つて親切で従つて信用も厚かつた、人を押しつけて自分一人が儲けるといふ風でない代りに人も須翁に利益を譲つたのである。

同志社大學のデピス博士の故夫人の従弟である關係から私は須翁老夫妻

居ると聞ひてゐるが、此事件の内容は多く知るまい。

まだ死んだ人がある、其は本事件の中心人物且夫人である。美しかつた且夫人も流行性感胃で未だ散るには惜しい三十幾歳を最後として一兩年前にその美しいトマトの様な肉體を紐育の土に永久に埋めたのである。

#### 四、聖き老夫婦

須翁老夫婦は純米國人である、それならば、拜金者流か、否、須翁は純米國人であるからこそ、金萬能の人でないのである、かの紐育や、市俄古にウジヨ〜居る拜金連は多くは猶太人であつて純米國人ではない。

須翁は六十あまりの老人なれど矍鑠たる事、壯者の如く、朝の七時半に

として出頭を命ぜられ検事に被告たるH夫人やH氏と共に調べられたのである、珍しもの好きの私も異なつた經驗がここまで來ると餘り好ましくもなかつた、その日から暫くは又もや新聞に書き立てられた。

私はもう此事件を聞くのが嫌になつた、私は地方の學校に留學してわざと聞かない様にした、而して大變化あらば報知してくれとY夫人に世話せられた或る日本人に依頼して置ひた、後に此日本人からB氏遺體に發見せられたのはB氏の持藥たる或る劇藥であつたといふ一醫學博士の證言と、B氏の弟が嫌疑發生の最初に責任があつた事と而して遺産の大部分は弟に與へられたといふ事とを知り得た。此日本人S氏は親切な男であつたが間もなく東京で死んでしまつた、今では氣の毒な妻子が神田で本屋を營んで

婦を雇ふと二三日して其看護婦に傳染する、更に二人の看護婦を雇ふ、家は病院の如くなる、或日私は特許を得て外出し、歸邸すると門前に消防馬車が來てゐる、聞くと二階のストーブから出火して、將に大事に至らんとして漸く消防隊が消し止めたのである、それから二三日して憐れ妹、ナーフ即ちB氏の二十萬弗問題の小主人公は猩紅熱の爲めに眠るが如く死んでしまつたのである。

毒殺事件に次いで愛嬢の死亡、それが傳染病で、病中に火災がある、何といふ騒々しい半年であつたらうか。

且家は遂に郊外の邸を引き拂つて紐育に移轉し、私は別に勉學をする事になつた、其年の四月突然として郊外の地方裁判所から毒殺事件につき證人

事もなく私は相變らずH家に居るのである、毒殺も一種の嫌疑であつたかと思ふと共にB氏が妹のナーフを特に愛して居つて遺言も眞實のものとなればH家へは遺産が二十萬弗入つて來るのであるから甚だ結構な事であるとも考へられる。

其年のクリスマスは特別に賑々敷客を呼び、兄妹の子供達にも大満足をする程の玩具等が與へられた、米國の風習として新年は極めて淋しかつた私も正月の餅はなかつた、一月には雪が降り郊外の大平野は一尺余りの積雪に包まれたのである、處が二月に五つの妹ナーフが風を引いたのが初りで二三日して發熱甚しく、遂に猩紅熱と診斷せられてH家一家は非常に騒ぎ出した、門前には黄紙を張つて外部との交通は全く遮斷せられる、看護

とつては事件が愈々五里霧中になつてしもふ、新聞は益々出でて愈々怪

◎B氏解剖の結果

毒藥發見さる

ポストン醫科大學教授の證言

胃中に或る藥品の残りありたり

自働車運轉手取調べらる、同人曰

「B氏一行四人を紐育に運びたり」

Y夫人は三人と別れて某所に行けり

離婚勝訴、Y氏巨金を夫人に與ふ

ここまで事件が切迫してもH家は案外静かである、とかく新聞で騒ぐ程の

る、新聞は相變らず盛んに書き續ける。

◎B氏遺體解剖か

検事局は告發せんか

H夫人は刑事に二時間尋問せられたか

應接室にての二人は検事の取調か

刑事か新聞記者か強迫か?

二人はB氏の弟よりの辯護士か?

H家の家庭教師A女史は萬事を承知?

邸内に日本青年あり怪紳士に會へり、

此日の新聞には私の寫真が出たのである、大變な所へ飛び火が來たが私に

た。

◎B氏遺言狀甚だ怪し

意識なき時に書かされたるか

H夫人の親友に催眠術師あり

文字は震ひて平常の手跡にあらず

二十萬弗は弟へを、テーフへと書き替か

「Hの長男七歳は半身不隨の低能兒なり

妹のナーフはH夫人に似たる美少女なり、」

私はH氏夫妻とは此事件に付いて殊更に何も話さなかつた、H家は絶対に來客を拒絶し、H氏は相談事でもあるらしく毎日紐育へ出張するのであ

H家にてB氏の遺言狀發表

「遺産二十萬弗をH家の娘へ」

「全財産の二分の一をHの長女ナーフ五歳へ

B氏の遺弟へは僅かに五萬弗

出身のボストン大學へ十萬弗

五萬弗はY夫人其他へ分配せよ」

「Y夫人はH夫人の姉なり、Y氏は米國製針會社々長にて二人の間に二

人の子供あり、Y氏は紐育オペラ女優と同棲しつとありとの理由にて

Y夫人より離婚出訴中、Y夫人とB氏とは共にH家の客たりき、」

それから翌日の新聞には、澤山の寫真を入れて例の如く大々的に書き立て

なり、午前四時に一自働車にてH夫妻は人事不省のB氏を自邸に運び入れたり、B氏は紐育にて既に服毒せしめられたるにあらざるか

かくて新聞紙は詳しく記事を載せた上に、想像の繪畫まで挿入して此の大疑獄をして益々迷宮に入らしめたのである。

### 三、彼女は淋しく墓へ

翌日の一新聞には更らに驚くべき文字がある

#### ◎ B 文學士毒殺事件

B氏は獨身者なりき

H夫人と親しかりき

くべき事件が第一面に記載せられてあつた、二號活字の見出し丈は次の如くである。

H夫人殺人疑獄

H氏共謀と推察せらる

B文學士の死因不審

夫人は絶世の美人、前半世不可解

H氏は紐育百萬長者の嗣子なり

郊外のH家にての夕食前にB氏はカツクテールを呑み、食事中

ウイスキーを呑みたり

「自働車にて紐育に出で某所にてこれを返したる後の一行の行動全く不明

應接室の戸が内から開かれて、二人の怪しい紳士とH夫人が出て來たのである、二人は私をチラと見て、そのまゝ、H夫人と私とに丁寧<sup>ていねい</sup>にグツトバ  
イと云ふて邸<sup>やしき</sup>を出て行つた。

「あれは、誰方<sup>どなた</sup>ですか？」

「辯護士らしいですね、」とH夫人は答へたらしかつたが、非常に興奮して  
居るので言葉も不明瞭で私には確かに聞き取れなかつた、而してH夫人は  
直ちに自室<sup>じしつ</sup>に入つてベッドに身を下ろして自ら精神<sup>せいしん</sup>を沈靜<sup>ちんせい</sup>にせんと務めて  
居つたらしかつた。

それから、二三日後のある朝、紐育から配達せられた新聞は全部H氏夫  
妻の室に運ばれて一葉も私は見なかつた、その翌日の新聞を一目見ると驚

ではないかと考へたので、心配し出して、急に警察署へ電話をかける用意まで豫め考へてゐた。かくて一時間経ち二時間程経つても三人は應接室から出て來ない。然し内から呼ばれない限り外から尋ねるのは米國の習慣上如何と考へて、僅かに次の室まで行くとH夫人の非常に興奮した聲が洩れる、やがてH夫人の泣き聲が聞える、既に異變ありと認めたら私は直ちに引き返して護身のピストルをポケットに忍ばせて次の室へ進んだのである。此の處一寸、活動寫眞のフィルムそのまゝである。實際はH夫人が氣の毒でならないと思ふたからである。

その瞬間……室内に起る一發の銃聲と來れば、私も日本男兒として一發や二發は發砲するのであつたらうが、その瞬間に銃聲ではなくして、實は

十哩はな離れたポストンのB氏の弟の家に送おくられた。これは後に知しつたのであるが、その時はH氏夫妻が自働車じどうしゃに同乗して出發しゅつぱつしたのを見たゞけである。

三四日して、H夫妻は自働車で歸邸きていした、ヤレ〜と云つた風の様子やうさまであつたが、然し邸内ていないではB氏の話をする事を好このまないらしいので、私は何も聞きかなかつた、それから二三日後にちのちの或日の午後、黒の背廣服せびろふくを着きた三十位の紳士風しんしふうの男が訪問ほうもんして來た、H氏は平素出勤へいそしゅつきんする所もなく、極めて器用ような手付きで邸内や庭の修理しゅうりをして居るのが普通ふつうであるのに、此日に限つて不在ふざいであつたが爲めにH夫人のみが此二人の男客をとこきやくに面接めんせつした、應接室おんげつしつは中から閉とぢられて何事も聞えなかつたが、私は此二人が何か怪あやしい曲者

あのB氏が今朝は既に死體となつて此邸内にあるのかしら、どうも西洋人の死ぬのは、早いものだなど、も考へて見た。

B氏は温厚な、三十七八の男で倭小な人であつた、男前は、あまりよくなかつた、然し金満家らしかつた、妻君もない、唯の一人身で、H家の客として永く滞在して居つたのである、酒が好きであつた、そして身體は弱かつた、然し急に死ぬ人だとは勿論想像しても居なかつた。

その日は一家中、大騒ぎであつた、H夫人は終日、顔を見せなかつた、二人の子供は隣りの邸に預けられて、死と云ふ暗い影を無邪氣な小兒達に見せまいとした、四五人の平常交際のある紳士や婦人達が出入した。その翌日、B氏の遺骸は寐棺に納められ、黒い布で覆はれて、邸の自動車で數

私はまだ一青年であら、而うして外國人であり、米國の風俗や習慣も充分知らなかつた、それでかゝる大家庭の樞機には勿論無干涉である、總てが小さい目で視、狭い耳で聞いた斷片的事實で、これを柔い頭で消化する丈けである、それ丈けに事件は一種の神祕の色を帯びて來る、又、私の想像し得ない、より以上の深い事實があるらしい、私はそれ等は總て讀者に御任せして開拓して頂くことにする。

間もなく、家庭教師の獨逸人に會つたから、何故醫者が來たか、又、何人が病氣かと尋ねて見た。

「B氏ですよ、B氏が急病でなくなりました」

私は、それを聞ひて驚いた、昨夜食後、四人連れで機嫌よく出て行つた、

がら自室で讀書して居つたが、やがて彼女も自室に去つたらしく、私も間もなく着床し、更け行く秋の夜は、且家の邸を神と暗とに包んでしまつたのである。

翌日、未明ふと耳をすますと客間に人々の話す聲がする、まだ朝には少し早いかと不思議に思ひながら、客室の方に行くと、且氏にはやつたり、會つた、そこへ見慣れぬ若紳士が出て來た。

「先生、どうも色々御世話になりましたして恐縮です」

且氏は若紳士に淋しい挨拶をした、若紳士は醫師であつた、醫師は何か、小聲で返事した、私は何故に見知らぬ醫師が來たか、而して何時の間にか知らなかつた、二人はそのまゝ向ふへ行つてしまつた、斷つて置くが

で、紐育の本邸は老父母に任せて、自分等はこの美しいエルム樹の多い田舎に暮して居るので、H夫人との間に、七つの男兒と五つの女兒とがある。H夫人はむしろ凄惨の美人で、トマトの様に生々とし、水々とした艶の好い肉感的な美人である。

秋も中を過ぎて、ポゴタ草が残りの色を止めて居る頃の事である、H氏夫妻は常の如く食堂で夕食を初めたのである、食堂には夫人の姉なるY未亡人と主人の友B氏と私と五人居つたのである、この夕食後、H夫妻Y未亡人とB氏とは直ちに自働車の用意をさせて、これに乗つて外出してしまつた、二人の子供は家庭教師の獨逸婦人に世話されて既に眠りに就き、私は召使のロシア娘が料理室で憐れなポーリツシユの歌を唱ふのを、聞きな

## 二、H夫人の殺人事件

ニユーヨークの諸新聞は、書いたも書いた、毎日、此事件で全頁を埋めて居るのである。何しろ、紐育上流家庭の令夫人で交際社會の花と謳はれ、美人の譽れ高いH夫人が、某紳士を殺したと云ふ、一大疑獄であるから、全市民が非常な興味を以て此事件に好奇の眼を見張つたのも無理はない。

私はある都合でH家に起居して居たのである。郊外に於ける壯麗なH家の邸宅は夫人を中心として、平和な時が續いて居つた。主人のH氏は三十七六の好男子で、紐育製紙會社々長として屈指の富豪、老H氏の一人息子

に私を世話して下さつた人もあつた少年少女のうちでも特に親しくして英語を教へて呉れたのもある、私は教室と運動場との會話の御蔭で耳と口とは大に鍛錬せられた、而うして間もなく、少年達と共に自由に談笑し得られる様になつたのである。

校畔、タムキンス公園に親しい學友と、人種の差別など、忘れて遊んだのは、メーブルの葉、美しい時であつた、噴水に雀が水を呑んで居るなど實に平和な景色であつた、五千里の異境、日本人唯一人の學校で、特別に世話をして下さつた紐育ブルツクリン小學校長マーア博士並に數名の男女先生に、永久に感謝の念を持つのである。

驗せられて小學校七學年Bに編入せられた、米國兒童は滿六才にして一學  
 年に入學し、初等科四ヶ年を終了して、滿十歳にして五學年生になつて  
 高等科生と呼ばれ、更らに四ヶ年にして八學年Bを最後として、こゝに小  
 學校を卒業し米國八ヶ年の義務教育を終るのである、一學年がA Bの兩學  
 年に區別せられてある、私はその七學年Bに編入せられて英語の爲めに非  
 常に惱まされたのである、教室で先生から質問せられて、その質問の意味  
 が解らないで、唯ニコ／＼と笑つて東洋流の愛嬌を振りまいて、置くより  
 他に方法のない事も度々あつた、然し算術の時間に「圓の直徑に三、一四  
 一五九を乗ずると圓圍が出ます」など、未だ他の少年達の知らない事を答  
 へて、大に日本帝國の名譽？を回復した事もあつた、先生のうちでは特別

本で一通り心得て居るのだ、私は今、英語を習ふ、むしろ實際の英語に慣れると云ふ目的の爲めに小學校に在學して居るのである、だから算術や代數は少々心得て居る、彼等に比して大した遜色はない、大遜色のあるのは英語である、日本人は英語がまづいと一概に思はれて居るだらうが、それは仕方がない、入學した翌日にロングフエローのエベンジュリンを讀本にとて渡され、間もなく「湖上の美人」を暗誦させられたには、ホト／＼弱つた。

日本の中學の英語は米國では仲々、實用の機會が乏しい、勿論勉強して置くに越した事はないが、最初、私が紐育の小學校に入學した時は非常に困つた、先づ教室では何も解らなかつたのである、私は算術と地理とを試

ら足の尖まで見て呉れ給へ、紐育の品ばかりだぞ、米化し、同化し、同じ教育を受け、同じ教會に出席して居るのだ、私の言葉は既に紐育訛の純米國語だよ、これでは紐育の小學校に排日問題も起るまい、身は小學校生徒でも仲々氣苦勞だ。實際三十人の教師二千人の學生、及びこれが父兄や近傍の人々に對して只一人の日本人である、彼等に日常親しく交際して居る點だけでは日本を或る意味で代表して居るのである、私は日本からの少年大使の責任があるのである。

「日本人は數學が上手だ」

このジョーア一人を日本人と總稱するのであるから、たまらない、私は數學が別に上手であると云ふわけでもないが、正比例、反比例、利息算は日

まり老年らうねんになるまで務つとめないが女は死ぬしまで働はたらいて居る様である、女は老  
ひては他たに轉職てんしょくし得えないのか、それとも死ぬしまで稼かせぐ人ひとが多いのか。

私は毎日、四五冊さつの本を革紐くわじゆで縛しばつて紙袋べんたうに辨當べんたうを入れて、これを抱かえ  
て、通學つうがくして居るのである、風呂敷ふろしきやハンカチーフで物を包つむ事を好すまな  
い米國人かみこくじんは必ず紙袋かみぶくろに辨當べんたうを入れる、紙袋かみぶくろは毎朝まいあさパン屋やがパンぱんを配達はいだつして  
來くる時ときに入れて持もつて來るのを利用りようするのである。私の辨當べんたうは牛肉ぎゅうにくのサン  
ドウィッチ二枚にまいに家庭製かていせいの大きな菓子くわしが一切いっけつと果物くだものが一つひとつに定さだつて居ゐつ  
た。

「ジョーア、何の御辨當ごべんたう? ……何だ僕等ぼくらと同じ様やうなものだな」

何の私わたしが壽計すしや汁粉じゆこを辨當べんたうに毎日まいにち、日本にっぽんから輸入ゆにふするかい、私の頭あたまの尖さきか

女學生達に一枚づゝの日本の煎餅を渡すと、これを手にして嬉々として居る、煎餅は紐育の或る町で日本人が焼いて賣つて居るのである、私は煎餅以外にも色々いろくのものを學校へ持つて行つた日本の繪葉書、銀貨、小絹布、寫眞、江戸繪など。而うすると學生達は仰山ぎやうざんに騒ぐのである、例へそれが町で澤山たくさんに賣つてあるものであつても、はた、それが一枚一仙まいせんの繪葉書であつても、蓋しけだ彼等の親達は表情上手へうじやうじやうずの米國人である、彼等は十四五才にして既に交際法の何たるかを知つて居るのである。

小學校の高等科かうとうくわの教師は男女各々半數づゝ位くらひである、ハイスクールを出たばかりの、二十才前後ぜんごの女學生の様な若い女教師けうしもあれば、米國の義務教育に盡す既に三四十歳と云つた風の御婆おばあさんの先生もある、男教師はあ

何の事だい、樂書の誓古かと、初めは思つたが、これも無邪氣な少女達の遊戯の一つである、後に知つた。教室の自由時間には切りにこうした風の手紙の交換が流行する。

「何がありませんの、ジョーア？」

私は、この小學校でジョーアと呼ばれて居つた、何の意味か知らない、又誰れが命名して呉れたのかも知らない、確か新島先生もポストンの小學校でジョーと呼ばれ遂に裏と自ら改名せられたそうだが、ジョーとは伊太利の繪師の様だがジョーアも一寸餘韻がある。

「何つて、こう云ふものさ」

「あーら、ライスケーキ！」

ならざるを得ない。

「早く拾つて下さいな、それ、机の横に落ちました」

少女の呼び聲に、私は振り返つて見ると、小紙片を幾つかに折り疊んで、私の机の方に投げて來たのである、私の教室は男女學生の混合で、同じ位の年輩の少女が男子の他に二十人ばかり居るのである、

小紙片を開ひて見ると、細いペンで書いてある、

「櫻の花咲く美しの野邊

豊に、流るゝ水と、澄みきつた空

日本の春、戀しからずや

あなたの友なるエサールより」

「日本猶太人はおかしな言葉だね、日本ではこう云ふか知ら、まーい、や  
 とにかく日本にもジューは商賣人や旅行客になつて澤山行つて居る筈だ、  
 だが洋服を着て居るか日本のキモノを着て居るか知ら……」  
 こうした無邪氣な而して智識欲に満ちた會話が彼等少年の間に常に交換さ  
 れるのである、私は今、米國紐育市の高等小學校に學んで彼等少年の友達  
 となつて居るのである、少年はいづれも色の白い都會つ兒である、私が此  
 小學校に入學してから日本と云ふ新しい事實が少年達の周圍に現れたので  
 ある、今まで日本と云へば東洋の遠い國で戦争に勝つた國で、赤い陶器の  
 皿や、青いキモノなどが製造される所だ位にしか考へて居らなかつた少年  
 達の面前に突然、私と云ふ生きた日本少年が現れたのであるから、問題と

他の少年達には不満足であつたらしい、モット識りたいと云ふ心地は、彼等の愛らしい目がクル／＼廻る丈けでもそれと察せられた。

「居るさ、勿論……」

一つ二つ年上であるブラウンが私に代つて話し出した、

「ジューはね、國のない浮草の様な人種なのだ、世界の國でジューの居らない所はないのだ、此ニューヨークにだつて何百萬人と云ふジューが居るこれはアメリカン、ジューで日本には日本猶太人が居るのだ、ね、居る筈だ」

少年達は私の顔を見て證明を求め様子である、而うするとブラウンは自分でブーツブーツと笑ひ出した。

# 米國の裏表

宮川節郎著

## 一、ニユーヨークの小學校にて

「日本にほんにもジューは居るね？」

この小學校中での美少年びせうねんウイットマンは、例の奇問きもんを私に持ち出した。

「いくら加居かゐるだろう」

私は猶太人ジューに付つひてこれ以上に委くわしく答へる智識ちしきがないのである、勿論私の簡單かんたんな答はウイットマンを初めかたわらに立たつて答へや如何にと待つて居つた

目 次

第一章 緒論

第二章 經濟學概論

第三章 生產要素與生產

第四章 市場與價格

第五章 消費者行為

第六章 廠商行為

第七章 市場均衡

第八章 政府干預

第九章 國際貿易

第十章 發展經濟學

十九、加州の黄金境	一四九
二十、シヤスタ山の天然炭酸水	一五六
二十一、排日問題の真相	一六四
二十二、加州問題の根本的解決策	一七二
二十三、文明人となるには	一七九
二十四、軍國政治を排す	一八七
二十五、我皇室と民本主義	一九二
二十六、英語會話上達の要項	一九九
二十七、百萬圓何のその	二〇八

目次終

九、米國の大學……………	六九
十、浮薄な米國人……………	七八
十一、精神病院の婦人室……………	八九
十二、社會主義の美少女……………	九七
十三、渡米日人のいろ／＼……………	一〇六
十四、愉快で面白い生活……………	一二二
十五、日本將來の殖民地……………	一二〇
十六、黒奴の話……………	一二八
十七、北米土人の祖先……………	一三四
十八、耳が痛い……………	一四〇

# 米國の裏表 目次

- 一、紐育の小學校にて……………一
- 二、H夫人の殺人事件……………二
- 三、彼女は淋しく墓へ……………二
- 四、聖き老夫婦……………九
- 五、放浪の我同胞……………三
- 六、獨立獨行の學風……………四
- 七、學生ローマンス……………五
- 八、特別仕立の急行車……………六

のない態度とに、私は幸ひにして米國の人々を表からも裏からも十分に觀察する事が出来た様に思ふのであります、或は學校に、或は家庭に、又は勞働や實業界に實地の體驗をした事は、やゝ漫遊旅行客よりは異なつた點があるかと思ひます。

勿論本書著作の目的は見たまゝ、聞ひたまゝの材料を提供して先輩諸氏の研究資料とし、併せて御叱正を乞はんと欲するものに外ならないのであります。

大正九年の秋

神戸摩耶山麓の假寓にて

著者 宮川 生

# 自序

十八歳の春でした、私は單身で日本を辭し、十七日間の航海をして太平洋を渡つて米國へ參つたのであります、私は先づシアトルに上陸し、その翌日、直ちに汽車で同市を出發し、鐵路六日間にして、紐育に着きました、それが忘れもしない、千九百七年七月三日で米國獨立祭の前日でありました、

私は、日本で物心の付いた頃から渡米までの年月よりも、やゝ長い月日を米國で送りました、その間に種々雑多の社會に、色々の生活を營み、各國の人種と各階級の人々に交り、年月の長かつたのと、青年に對する秘密

したね、あの米國の珍しい風俗や、面白い習慣を伺ひまして妾は更らに更らに米國が好きになりましたのよ。

星の輝く夜、アメリカの詩を思ひ花を語る。妾はあなたの「米國の裏表」の御發表を樂しんで待ちます。

大正九年菊の月帝國劇場にて

小原小春

## 序

アメリカとイギリスとへは妾は是非行つて見たいと考へて居るので御座います、特にアメリカは妾が夢にも懐つて居る國で御座います、米國の御婦人方に御會ひ申しましてもそのハキ／＼した御様子と云ひ、御快活な御話振りと云ひ眞に、御慕しく存じます。

米國婦人は氣高い百合の花の様に考へます、然し御家庭では、温い御質朴な所は、谷間に咲く忘れな草の様では御座いませんか。

そう、汽車は靜に富士を右に見つゝ西へ西へと走つて居る時、車中は割合に靜かでありましたが、あなたは、米國の御話を妾になすつて下さいま



の志に外ならぬのであらふ。彼の性格と其閱歷とは、彼此兩國民の親交を證明する、活ける資料と云ふべきである。予の如き者が敢て自ら揣らす、請はるゝ儘に本書に序するのも、畢竟著者と同情同感、其の企つる處に共鳴を感じるからである。

大正九年十一月十七日夕

東京市外西巢鴨の寓居に誌す

牧野虎次

彼の知人等が四條教會に集ふて送別會を催した時に兩親も共に列席せられた。これが縁となつて、彼が渡米後間もなく、兩親ともに基督信者となられた。彼が未丁年の身を以て、遠征萬里、外國留學中の優しく且つ健筆なる通信は、其兩親に多大の感動を與へた。彼が在米七年間に、兩親は彼の京都に於る友人等數十名を導き、健全なる信仰の生涯を辿らしむるに至つたのである。彼が在米中の經歷と、其に伴ふ見識や感想は、本書の内容の語る處であるから、予は敢て贅せない。彼は現に春秋に富む前途多望の青年實業家である。過去の經驗を語るよりも、將來の抱負を示す方が彼に取ては相應しいことであらふ。左るにも拘らず敢て本著のある所以は、彼が時局に鑑み、その一身の實歴に徴し、聊か日米關係の解決を試んとする奉仕

# 序

著者宮川節郎氏と予とは、十數年來親交の間柄である。予が京都四條教會の牧師在勤中、府立第二中學校在學生の爲にバイブル、クラスを開いてをつた時、熱心に出席せられた有志者の一人は著者であつた。當時著者は紅顔豐頬の美少年で、年齒漸く十六七歳であつたと思ふ。間もなく彼は同窓の富敦吉、清水勝太郎等諸氏と共に、信仰の生涯に入りて、四條教會員となられたのであつた。然るに彼は宮川家の獨り息子で、兩親の秘藏兒であつたにも拘らず、有爲の精神止み難く敢然渡米の志を立て、即時決行を迫りて、周圍の人々を驚かせた。しかし兩親も思ひ切つてその申出に同意せられたのみならず、彼の志を勵まし、其大成を鞭撻せらるゝに到つた。

あなたが平常妾に御話し下さいました事、及び妾があなたに申し上げました凡の事を、そのまま御書き下さいますならば、それこそ眞の米國觀かと存じます、而して妾はあなたが眞に米國の表裏を御書きなさるものと信じて居ります。

眞實は最も美しい、友情であります、妾はあなたが米國の總てに付いて眞情を御書き下さる事によつて妾等が切に希望して居る日米親善の一助となる事を信じます、妾の名を日本語に直譯して、あなたは妾を薔薇サンと御呼び下さいましたね、妾は今日も尙薔薇さんと云ふ日本語を記憶して居る程、實は日本が好きなのです、どうぞ、妾の心が日本人紳士淑女に通じます様御願ひ致します、さようなら。

日本人の薔薇さんより

## 序 (譯文)

米國紐育　ローズ、ジエームス嬢

親愛なる節郎さん……妾のこの手紙があなたの著書の序文になる様、祈りつゝ大急ぎで認めます。

あなたの米國に於ての御生活や御觀察は、以前はやはり、一外國人たるの範圍を出なかつたでしよふ、然しニューヨークで、あなたと御交際申して居りました時には、あなたは全くの米國人でありました、妾は、あなたが日本人であつた事を時々忘れて居つた位でした。

今日まで妾は日本人紳士によつて書かれた二三の米國に關する著書を読みました、けれどもどれも、妾の心を満足させる程ではありませんでした。

which I know underlaid your effort. It will be a faithful reflection of the American people as you know them, and it should show some of their faults, that their virtues may thereby be more visible.

That all of your enterprises may be successful is my sincere hope.

Very truly yours,

*J. M. ...*

米國イリー鐵道會社長

エフ、デイ、アンダーウッド氏序

日米親善の聲高き時、紐育有數の實業家より眞情を語る序文を贈らる、鐵道員と蛙の一話甚だ面白く、且つ以て米人の日本に對する偽らざる心を讀むに足る、強ひて譯文せず、敢て原文のままの眞味を提供する事とせり。

(著者識)

Dear Setsuro :

A reply to your letter of August 4th was delayed owing to my absence. I hope that this may reach you in time to be of service.

The book, treating on the subjects enumerated in your letter, will in my opinion be both entertaining and instructive to the Japanese people.

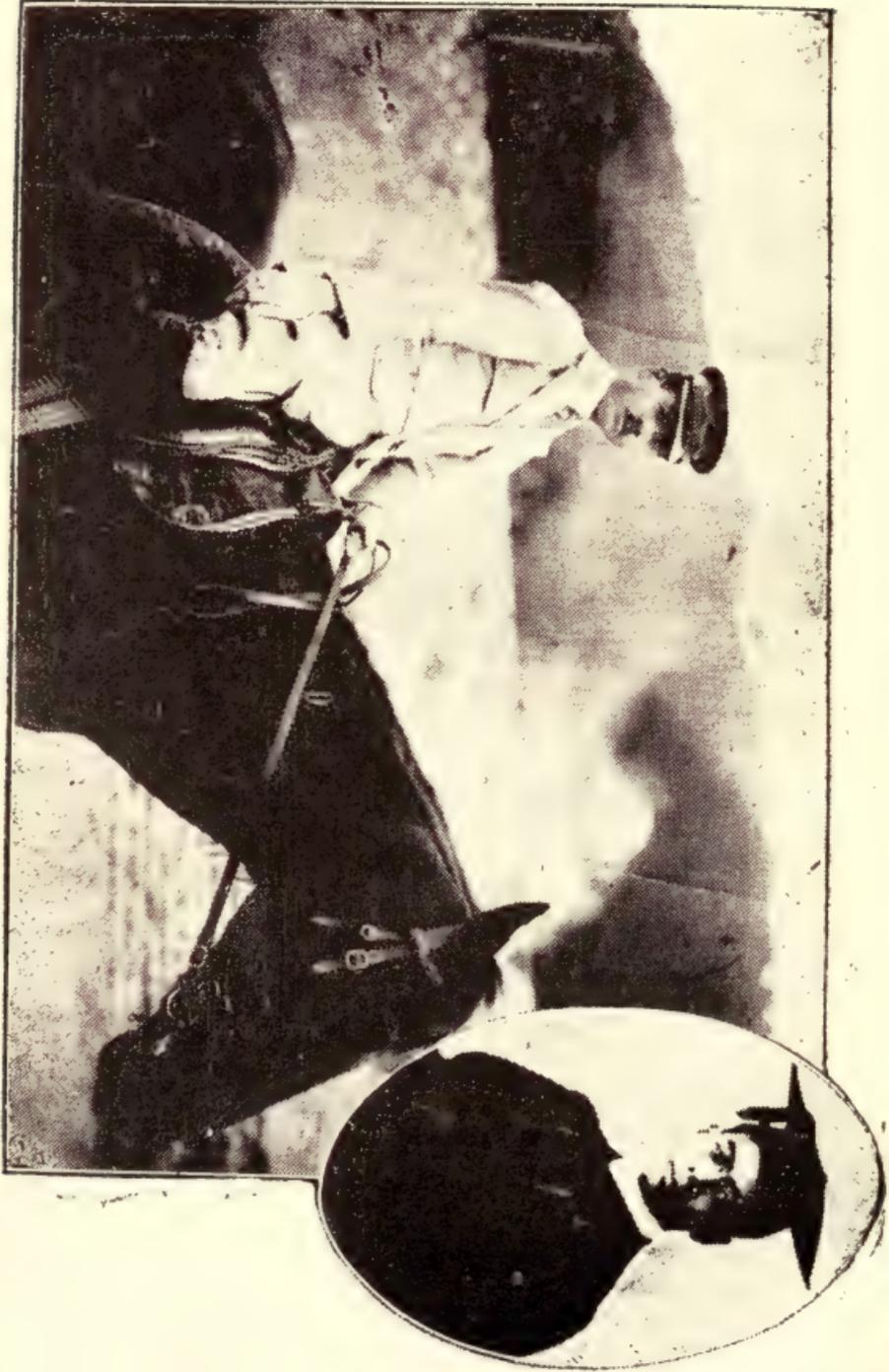
Possibly the story of the man who contracted to deliver a railway carload of frogs for table purposes is known in Japan. It runs as follows: He engaged railroad transportation and a large force of men and boys to capture a carload of them from a pond. It developed that a few dozen of frogs only were obtainable. He was asked by the intending purchaser of the frogs how he gained the impression that a carload could be collected at any one time and place. His reply was - "I judged their numbers by their noise."

This story applies to the verbal assaults on the friendship between your country and the United States. We feel sure that the well-meaning people in your country will apply the parable of the man and the frogs, as will the well-meaning people in the United States. Noise and din should not be taken as the underlying sentiment in either country. Loose-thinking and non-thinking people make noises that may seem menacing. They need not be taken too seriously.

I trust the book may meet with great success and perform the object



大學卒業當時の著者



著者の最近

E

164

M59

1920

EAST

米國の裏おもて

米國商學士  
京都府囑託

宮川節郎著

DISCARD

INSTITUTE OF BUDDHIST STUDIES LIBRARY







